

令和7年度 若年層及び子育て世代を対象とした意識調査 グループインタビュー調査報告書

令和7年11月
東京都子供政策連携室

1. 調査概要	3
2. 調査結果	7
2.1. 調査結果の整理方法	8
2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)	10
2.3. 類型化・整理結果	23
2.3.1. 出会い・結婚	24
2.3.2. 出会い・結婚に係る環境・支援	35
2.3.3. 出産・子育て	39
2.3.4. 出産・子育てに係る環境・支援	51
2.3.5. 東京都に住むこと	59

1. 調査概要

1. 調査概要

調査概要

- 本調査の実施概要は以下の通り。

調査の実施概要

調査名	若年層及び子育て世代を対象とした意識調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none">・ 対面によるグループインタビュー・ 1グループあたり90分の実施
調査実施期間	令和7年5月23日(金)～令和7年6月1日(日)
調査対象者	<ul style="list-style-type: none">・ 18歳～49歳の東京都在住者60名(インターネットアンケート調査回答者の中で希望者を募り、対象者を抽出)・ グループ別の対象者は以下の通り(男女各1グループ、各5名)<ul style="list-style-type: none">① 未婚・結婚願望なし or 未婚・結婚願望あり・婚活なし② 未婚・結婚願望あり・婚活中 or 未婚・結婚願望あり・交際中③ 既婚・子供なし・子供意欲なし④ 既婚・子供なし・子供意欲あり⑤ 既婚・子供意欲あり(もしくは子供あり)・理想の子供数と予定の子供数の差1人以上(理想>予定)⑥ 既婚・子供1人・理想の子供数1人
調査実施機関	株式会社三菱総合研究所(東京都委託)

1. 調査概要

調査スケジュール

- 本調査の実施スケジュール、各グループの対象者の特徴は以下の通り。

調査の実施スケジュール、各グループの対象者の特徴

No.	日時	性別 グループ番号	婚姻 状態	結婚願望	婚活有無	現在の 交際有無	子供有無	子供意欲	その他条件
1	5/23(金)10:30-12:00	女性⑥	既婚				あり		理想の子供数1人
2	5/23(金)18:00-19:30	女性②	未婚	あり	どちらも	どちらも			
3	5/23(金)20:30-22:00	男性①	未婚	どちらも	なし				
4	5/24(土)10:30-12:00	女性③	既婚				なし	なし	
5	5/24(土)13:00-14:30	女性④	既婚				なし	あり	
6	5/24(土)15:30-17:00	男性⑤	既婚				なし	あり	理想> 予定の子供数
7	5/27(火)20:30-22:00	女性⑤	既婚				どちらも	あり	理想> 予定の子供数
8	5/31(土)10:30-12:00	男性③	既婚				なし	なし	
9	5/31(土)13:00-14:30	男性②	未婚	あり	どちらも	どちらも			
10	5/31(土)15:30-17:00	男性⑥	既婚				あり		理想の子供数1人
11	6/1(日)10:30-12:00	女性①	未婚	どちらも	なし				
12	6/1(日)13:00-14:30	男性④	既婚				なし	あり	

1. 調査概要

インタビュー項目

● 各グループのインタビュー項目は以下の通り。

各グループのインタビュー項目

No.	項目	グループ①	グループ②	グループ③	グループ④	グループ⑤	グループ⑥
1	自己紹介	家族構成、仕事、趣味、働き方等					
2	出会い・結婚について	<ul style="list-style-type: none">結婚にどのようなイメージがあるか(①②)結婚したいと思わない理由は何か(①)結婚したいと思う理由は何か(②)結婚願望があっても婚活をしていないのはなぜか(②)現在の婚活の状況はどうか(②)交際相手とまだ結婚していない理由は何か(②)		<ul style="list-style-type: none">現在のパートナーと結婚した経緯<ul style="list-style-type: none">➢ 出会いの経緯➢ 結婚を意識した/決めたきっかけ➢ 結婚にあたっての障壁があったか			
3	出産・子育てについて	<ul style="list-style-type: none">子供を持つことにどのようなイメージがあるか(①②)子供を持ちたいと思う/思わない理由は何か(①②)		<ul style="list-style-type: none">子度を持つことにどのようなイメージがあるか(③④⑤)子供を持たない/持てない理由は何か(③)子供を持ちたいが、今は持たない/持てない理由は何か(④)理想の子供の人数よりも予定の子供の人数が少ない理由は何か(⑤)子供を持つことをどのように考えていたか(⑥)理想の子供の人数は何人をイメージしているか(⑥)理想の子供の人数が1人なのは、どのような理由からか(⑥)			
4	東京都に住むことについて	<ul style="list-style-type: none">東京都に住んでいる理由は何か(全グループ共通)今後東京都以外に移住する場合、どのような理由が考えられるか(全グループ共通)将来子供ができた際に、東京都に住み続けて子育てしたいと思うか(④⑤)					
5	東京都の結婚・子育て支援等について	<ul style="list-style-type: none">東京都は婚活しやすい環境だと思うか(全グループ共通)東京都は子育てしやすい環境だと思うか(全グループ共通)東京都の結婚・子育て支援として、どのような政策が重要/今後求められると思うか(全グループ共通)望む人が安心して子供を産み育てやすい社会を実現するために何が必要だと思うか(全グループ共通)					

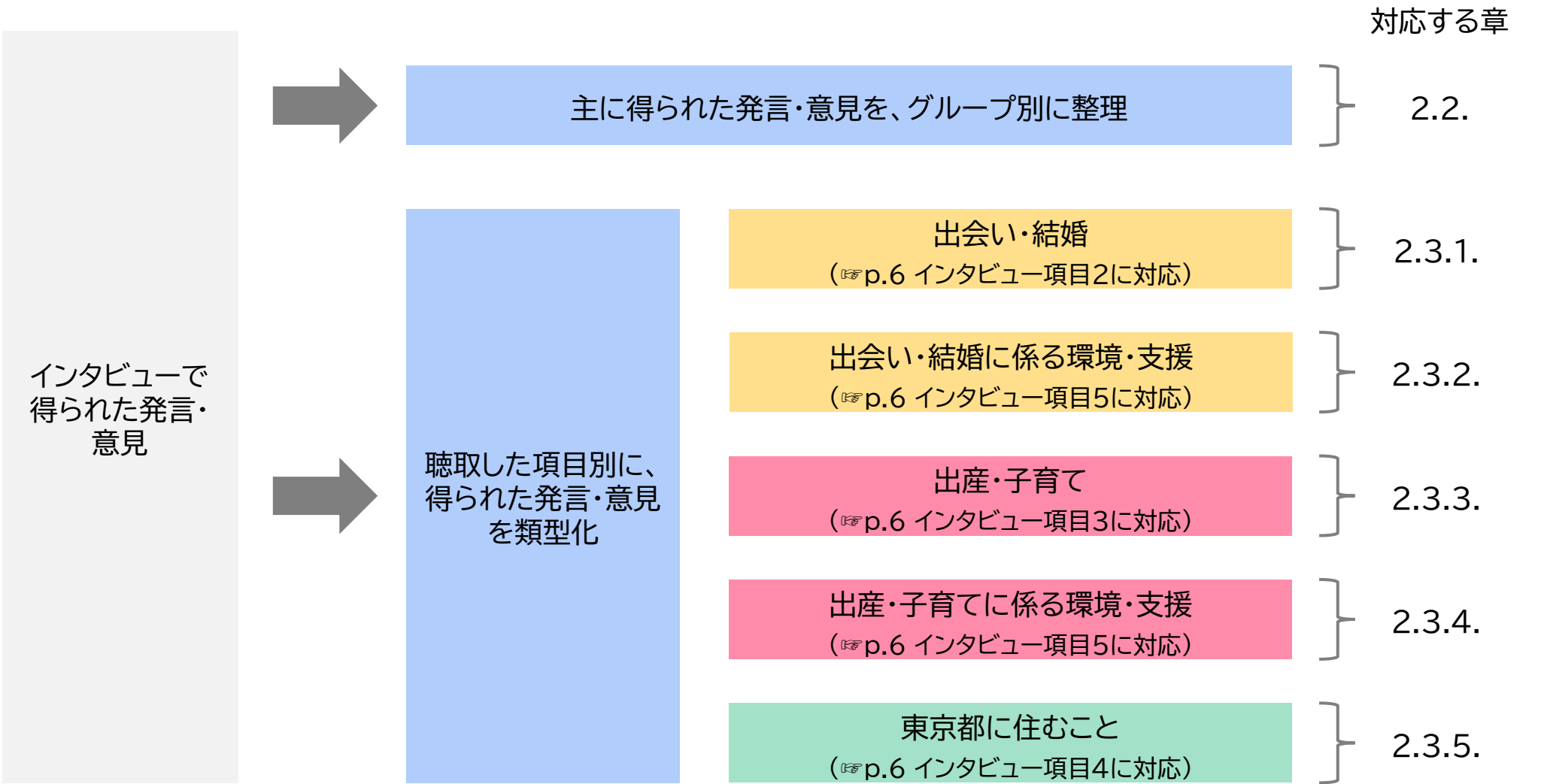
2. 調査結果

2.1. 調査結果の整理方法

調査結果の整理方法

- 本インタビューで得られた発言・意見は、以下2つの方法で整理・類型化を行った。

調査結果の整理・類型化の方法



2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(男性・グループ①)

● 男性のグループ①について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(男性①)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	希望の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性①】 未婚・結婚願望なし or 未婚・結婚願望あり・ 婚活なし	1	20代	学生	なし	あり	交際中	0人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在交際相手はいるが、オンラインゲームの仲間であり、まだ対面で会ったことはない。 ・ 結婚はお金や時間の自由が縛られるイメージがあるため、結婚したいとは思わない。 ・ 子供を持つことは、結婚以上にお金と時間がかかるものであり、そのために自分を犠牲にしたいとは思わない。男性の育児休業の取得や短時間勤務の利用等が社会で推奨されるようになり、これらの制度を利用しても同じ給与が支給されるようになれば、子供を持ちたいと思うかもしれない。 ・ 積極的に婚活をしようとは思わない。婚活をすることで国や自治体からお金をもらえるのであれば、婚活をするかもしれない。
	2	20代	正規の社員・職員	あり	答えたくない	なし	2人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場は男性がほとんどで出会いがなく、休日でも一人で過ごすことが多い。友人からマッチングアプリを利用している話を聞くこともあるが、価値観が合う相手と出会うことが難しいイメージがある。 ・ 結婚願望がないわけではないが、結婚のためには婚活や、長く交際を続ける等の努力が必要であり、現状仕事も忙しく、一人の生活に満足しているため、結婚によるメリットがあまり感じられない。 ・ 東京都は人口規模の側面から出会いの機会が多いと思うが、地方は一人で楽しめる娯楽が少ないため、恋愛・結婚がよりしやすい環境なのではないか。
	3	20代	正規の社員・職員	なし	なし	—	答えたくない	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恋愛経験もなく、交際をするためには人に好かれる魅力を磨かなければならないため、ハードルが高い。 ・ 結婚をするとお金の自由がなくなる、恋愛感情がなくなった相手と関係性を継続する必要がある等、結婚をして幸せな人間は稀有なイメージがある。 ・ 人は生まれながらにしてスキルや家庭環境が決まっている上に、人生で様々な困難があるため、そのような思いを子供にさせたくない。人のお世話をできとも思えないため、子供が欲しいとは思わない。 ・ 東京都は男女ともに働いている割合が高く、趣味や娯楽等のコンテンツも充実しており楽しみが多いため、婚活には向いていない環境なのではないか。
	4	30代	自営業主・家族従業者・内職	なし	なし	—	0人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給与が低く生活も安定していないため、自分が結婚できるとは思わない。恋愛経験もなく、恋愛・結婚のイメージも湧かない。 ・ マッチングアプリを使ったこともあるが、詐欺を目的とした利用者も多く、今後使おうとは思わない。結婚相談所にも、相手に経済力を求める女性が多いイメージがあり、良い印象がない。 ・ 周囲の友人には、結婚しても幸せに見えない人も多く、結婚することのメリットが分からない。 ・ 自分からは優秀な子供が生まれるとは思えず、育てたくもないため、子供を欲しいとは思わない。
	5	30代	正規の社員・職員	あり	あり	なし	0人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の友人には結婚して子供がいる人も多く、漠然と結婚を意識するようになった。老後のことを考えても、生涯独身でいることには寂しさを感じる。 ・ 以前同棲をして結婚を考えた相手もいた。現在は積極的に結婚相手を探す行動はしていないが、機会があれば結婚をしても良いと思う。 ・ これまで使ったことはないが、もし婚活をすることになればマッチングアプリを利用することになると思う。結婚したいと考えている人同士がマッチングできるサービスがあると良い。 ・ 現時点では子供を持つイメージはないが、子供がいたら嬉しいと思う。将来のパートナーが子供を欲しいと考えている、あるいは教育費や給食費等の心配がなければ、自分も子供を欲しいと思うのではないか。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(女性・グループ①)

● 女性のグループ①について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(女性①)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	希望の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性①】 未婚・結婚願望なし or 未婚・結婚願望あり・ 婚活なし	1	20代	正規の社員・職員	あり	あり	なし	2人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲に結婚をしている人が多く幸せそうで、自分の両親も仲が良いため、結婚には良いイメージがある。 ・ 現在交際相手はいないが、以前は5年ほど交際をした相手がいいた。結婚願望は強いので、恋愛・結婚相手に求める条件を妥協して、より視野を広げた方がよいと思う。 ・ 子供は二人欲しい。子供が特別好きというわけではないが、周囲の友人からも自分の子供はかわいいという話をよく聞かため、子供は欲しい。自分が二人兄妹であるため、30代半ば頃までに二人できると良い。 ・ 行政が提供する婚活支援の場は、“まじめでしっかりした人”が利用するイメージで、あまり活用したいとは思わない。自分と相手の共通点があらかじめ分かっていたら新しい人と出会う動機付けになるかもしれない。
	2	20代	正規の社員・職員	なし	なし	—	0人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚に対して良いイメージはあるが、交際経験もなく、どちらかと言えば一人でいる時間の方が好きなので、他人と一緒に生活することは想像がつかない。 ・ 姪っ子のお世話をすることもあり子供は好きだが、経済的な側面から、子供を持つことは難しいと思う。結婚したとしても、相手の収入に頼ることは抵抗がある。 ・ 望む人が子育てをするためには、まずは金銭面での支援が重要だと感じる。
	3	30代	正規の社員・職員	あり	なし	なし	2人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の友人や職場の後輩は結婚・出産をしている人が多く、結婚に憧れがある。女子校出身で交際経験はなく、マッチングアプリも以前使ったことがあるがイメージと違う人が多く、現在は使用していない。 ・ 子供を持つことで自分の時間がなくなるイメージはあるが、子供を通じて自分も人間的に豊かになれると思う側面もあり、子供は欲しい。自分が二人兄妹であるため、子供は二人が理想。 ・ 行政が提供する婚活支援の場は、書類手続き等が煩雑な印象があり利用していない。良い意味で“まじめでしっかりした人”が利用するイメージがあるため、手続きが簡単であれば利用したいと思うかもしれない。
	4	30代	正規の社員・職員	あり	あり	なし	1人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚は自分の時間がなくなるイメージはあるが、最近結婚した周囲の友人を見ても幸せそうだと感じるため、いずれは結婚したいと思う。 ・ 現在交際相手はいないが、以前は7年程度付き合ってた同棲をした相手もいた。マッチングアプリで出会う相手はイメージと違うことも多く、現在は使用していない。 ・ 現在は転職活動をしているため、それが落ち着いたら相手探しを再開したいと思う。「婚活」という言葉は固いイメージがあるため、フランクな出会いの場があると良い。 ・ 甥っ子や友人の子供と接する中で子供はかわいいと思うようになり、自分も子供が欲しい。経済的な面から一人持つのが現実的だが、もし経済的な懸念がなければ二人持ちたいと思うかもしれない。
	5	30代	正規の社員・職員	なし	あり	なし	0人	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲には結婚をしている人が少なく、自分は片親家庭であったため、結婚に対するイメージが湧かない。一人で過ごすのが好きで、子供を欲しいとも思わないため、結婚をする必要性も感じない。 ・ 以前は3、4年ほど交際をした人がいた。老後の生活に対する漠然とした不安があり、出会いがあれば交際相手はいても良いと思うが、こだわりはない。 ・ 子供と触れ合う機会はこれまで全くなく、どう接すれば良いかわからない。子供を持つと自由な時間がなくなることに加え、自分に似ている子供は持ちたくないため、子供が欲しいとは思わない。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(男性・グループ②)

● 男性のグループ②について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(男性②)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	希望の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性②】 未婚・結婚願望あり・ 婚活中 or 未婚・結婚願望あり・ 交際中	1	20代	正規の社員・職員	あり	あり	あり	3人	—	<ul style="list-style-type: none"> 自分の両親を見ていて、結婚には良いイメージがある。結婚歴があり娘が一人いるが、4年半ほどで離婚をした。娘のためにも自分のためにも、新しい交際・結婚相手が欲しい。 友人の結婚式の二次会や、婚活パーティのような集まりで交際・結婚相手を探している。マッチングアプリも使っていたが、交際目的ではない利用者もいるため、あまり信用していない。 自分が三人兄妹であるため、子供は三人が理想だが、子育ての苦労や経済面を考えると、現実的には二人を想定している。 東京都は出会いの場が多い一方、自ら出会いの場を探さなければ出会うことが難しい印象がある。
	2	30代	正規の社員・職員	あり	なし	あり	3人	—	<ul style="list-style-type: none"> 自分の両親に孫を見せたい、家族がいた方が生活が楽しいという思いから、2、3年以内には結婚をしたい。結婚は家族との衝突もあり大変だが、楽しいことも多いイメージがあり、結婚したい気持ち強い。 今年の1月頃からマッチングアプリを使い始め、結婚を前提とした交際がしたいと思っている。これまで複数人と会ったが、交際には発展していない。 周囲には結婚して子供を持たない夫婦はおらず、結婚をすれば自然な流れで子供ができるイメージがある。自分にも兄妹がおり、一人、二人は子供が欲しいと考えているが、三人以上はまだ想像できない部分がある。 東京都はマッチングアプリでもマッチングがしやすく、比較的婚活しやすい印象がある。
	3	30代	正規の社員・職員	あり	あり	交際中	2人	—	<ul style="list-style-type: none"> 結婚は大変なイメージもあるが、結婚をした方が楽しく豊かな人生を送れると思うため、結婚に対する抵抗感はない。現在の交際相手とは半年から1年ほど交際しており、今後結婚したいと考えている。 結婚に向けて、特に具体的な行動はしていない。家の購入や税金等、外的な要因が結婚を後押しする可能性もあるかもしれない。結婚の期限も設けていないが、3年以内には結婚するかもしれない。 子供は2、3人をイメージしているが、同僚や上司、メディア上にも子供がいない人がいるため、子供を持たない選択肢もあり得る。出産を機に体調を崩した同僚がおり、むやみに子供が欲しいとは言えない。 キャリアと子育ての両立のための支援があれば子供を持つことのハードルは下がるかもしれない。 東京都は自然環境が不足しているため、より自然が豊かな23区外や神奈川県に移住することはあり得る。
	4	40代	派遣・嘱託・契約社員	あり	なし	あり	2人	—	<ul style="list-style-type: none"> 若い頃は結婚願望はなく、自分のやりたいことにお金を使いたい気持ちが強かったが、このまま一人での生活が続けることは嫌だと思い始め、結婚したいと思うようになった。 マッチングアプリを使っているが、信頼関係の構築に時間がかかり、交際には発展しないことが多い。 自分が一人っ子であるため、親からのプレッシャーはないものの、自分の代で家系が途絶えるのが嫌だという思いから、子供は欲しい。一人っ子は寂しいため子供は二人欲しい気持ちもあるが、経済的な面から現実的には一人、経済面での懸念がなかったとしても二人が限界というイメージがある。 東京都は子育て支援が充実している印象があるが、競争社会の中での子育ては大変なイメージがある。ただ、東京都は生活に便利のため、子供が生まれても地元の田舎に引っ越すことは考えづらい。
	5	20代	正規の社員・職員	あり	あり	交際中	2人	—	<ul style="list-style-type: none"> 結婚は良いイメージの方が強い。学生時代からの友人が結婚することも増えてきており、周囲から取り残されている焦りがある。一人で生活するのは寂しく、自分の両親にも孫を見せて安心させたいという気持ちもあり、結婚・子育てをしたい気持ちがある。 自分の父親が35歳前後で結婚したため、何となくではあるが、自分も35歳までに結婚するイメージがある。現在は交際相手があり、結婚も意識しているが、現状具体的な話はしていない。 一人っ子は寂しい印象があるため、子供は2、3人欲しい。三人以上の場合、経済面や子育ての負担が大きいため、理想は二人。35歳で結婚して、その後1、2年で一人目、その2年後に二人目ができると良い。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(女性・グループ②)

● 女性のグループ②について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(女性②)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	希望の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性②】 未婚・結婚願望あり・ 婚活中 or 未婚・結婚願望あり・ 交際中	1	20代	パート・ア ルバイト	あり	あり	交際中	1人	—	<ul style="list-style-type: none"> 結婚のイメージはお金もかかって大変なイメージがある。自分は元々一人でいることがあまり好きでなく、楽しい経験を共有できる相手がいた方が良いという思いから、結婚願望がある。 現在は24歳年上の交際相手があり、4年ほど前にマッチングアプリで出会った。当時は結婚を前提に交際を始めたわけではなかったが、相性が良く、近日中に結婚を予定している。 結婚のタイミングはいつでも良かったが、自分の年齢が低いことによる未熟さが、交際相手にとっての結婚のハードルになっていたかもしれない。 自分のキャリアにはこだわりのないため、子供ができることで新しい生活になることが楽しみ。妊娠や出産に対する不安もあまりなく、交際相手の年齢が高いためなるべく早く子供を作ろうと考えている。義実家では男の子が求められているため、男の子が生まれるまでは子供を産みたい。
	2	20代	正規の社 員・職員	あり	あり	あり	1人	—	<ul style="list-style-type: none"> 結婚についての価値観は多様化しており、特に東京都は結婚するのが普通という価値観が薄まっているように感じる。自分は地方出身で身寄りも少なく孤独感があるため、いずれは結婚したい気持ちがある。 マッチングアプリを使って結婚相手を探しているが、出会いを見つけることよりも、結婚相手を選ぶ妥協点を探すことが難しい。行政による婚活支援は、手続きが煩雑なイメージから抵抗感がある。 妊娠や出産は、自分のキャリアや趣味の時間を諦めなければならないイメージがあり、自分の時間が取れないことに対する不安がある。行政からは、マタニティエステや子育てに関する相談体制の整備等、子育て層の気持ちに寄り添う支援があると良い。 東京都から移住する予定はないが、地価が高くなっているため、周辺県への移住はあるかもしれない。
	3	30代	正規の社 員・職員	あり	あり	あり	1人	—	<ul style="list-style-type: none"> 一人の時間が好きなため結婚のハードルは高いが、結婚・出産をする同年代の友人が増えてきたことや、親族からのプレッシャーもあり、結婚に向けて頑張ろうという気持ちが強くなった。自分の年齢を考えても、早く結婚をしないと子供が産めないのではないかと不安がある。 身近で最近結婚した友人はマッチングアプリを使っていることが多く、自分も今年の3月に使い始めた。 元々子供が好きで、姪っ子もかわいいため、子供は欲しい。地方出身のため、親族から子育ての支援が受けられないことや、妊娠・出産の不安はあるが、子供が欲しい気持ちの方が強い。 核家族化の進行により、親がしっかりと子供を見なければならぬ風潮がある中で、子供を気軽に預けられる、子供の面倒を一時的に見てもらえるような公的な補助・サービスがあると良い。
	4	30代	正規の社 員・職員	あり	あり	交際中	2人	—	<ul style="list-style-type: none"> 元々結婚願望は強くなかったが、周囲に結婚する人が増え、会話やSNS等を通じて結婚・子育ての話聞く中で、結婚に対してプラスのイメージを持つようになった。 マッチングアプリで結婚願望がある人に条件を絞り、知り合った相手と3か月ほど交際している。互いに結婚を前提に交際しているが、今後同棲をして生活の価値観に問題がなければ結婚したいと考えている。 子供が好きのため、子供は欲しいと思うが、経済面や出産後に仕事に戻れるかの不安がある。
	5	40代	正規の社 員・職員	あり	あり	あり	0人	—	<ul style="list-style-type: none"> 一人の時間が好きなため結婚意欲はなかったが、体調が悪い時や災害が起こった時に、一緒に住んでいる人がいると安心感があるため、結婚したいと思うようになった。 マッチングアプリを使っているが、経歴詐称や詐欺が怖くなり、あまり使わなくなった。行政が提供するマッチングアプリは、その懸念が少ないため、今後利用者数が増えれば使いたいと思うかもしれない。 人の世話をすることが苦手なため、子供を持つことは考えていない。不登校など、子供が問題を抱えた際にしっかりと対処できる自信がない。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(男性・グループ③)

● 男性のグループ③について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(男性③)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性③】 既婚・子供なし・ 子供意欲なし	1	30代	正規の社員・職員	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 高校の同級生と社会人になってから再会し、結婚した。結婚にあたってのハードルは特になかったが、家事等に関する価値観の違いは感じる。家事分担は1:1程度である。 20代後半から30代前半までは子供が欲しいと思っていたが、周囲には結婚して子供を持たない人も多く、今はどちらでも良い。30代後半で結婚したため、高齢出産に伴うパートナーの身体的負担にも懸念がある。妊活は経済的な負担が大きいことに加え、上手くいく保証もないため、現時点では考えていない。 一度前職を辞めて大学院に通い再度就職をしたが、その時点での結婚との両立は難しかった。自分のキャリアを優先せずに20代から30代前半で結婚していたら、子供に対する考えも違っていたかもしれない。 東京都は住宅価格や学費が高く、平均的な収入では子供を持つことは難しい。
	2	40代	無職・家事	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 大学時代の後輩と交際を始め、お互い別で暮らすよりも一緒に生活した方が経済的にも負担が小さくなることもあり早く結婚したかったが、相手のタイミングを待ち、5年交際して結婚した。 コロナ禍を機に仕事を辞め、専業主夫となった。家事は9割程度、自分が行っている。 子供は手がかかるイメージがあり好きではなく、仕事の関係で一般人にインタビューを行った際も、子供を持つことは大変と話す人が大多数だった。さらに、子育てには相応の責任が伴うため、子供が欲しいとは思わない。趣味の山登りにも自由に時間を使える現状の生活に満足している。
	3	40代	正規の社員・職員	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 共通の知人経由で出会った相手と1年超交際し、結婚した。自分の両親が20代前半で結婚していたため、自分も30歳前後で結婚しようと考え、30歳頃に結婚した。結婚に際しては、結婚式に関する両家の慣習や考え方に違いがあり、その調整に苦労した。 パートナーは慢性的に体調が優れず、自分がサポートをすることが多いが、パートナーの体調が良く、自分も仕事の繁忙がない場合は、家事分担は1:1程度である。 元々子供に対する強い願望はなかったが、パートナーの体調が優れないことに加え、経済的にも余裕が少ないことから、子供を持つことは難しい。30代の頃に子供を考えたこともあったが、自分の仕事の繁忙もあり、しっかりと考えられなかった。
	4	40代	正規の社員・職員	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> パートナーとは結婚相談所で出会った。それまでにマッチングアプリや婚活パーティも利用したが、上手くいかなかった。結婚相談所に入会してからは1年以内に結婚した。家事分担は1:1程度である。 子供は元々好きではなく、上手い接し方が分からない。結婚当時はお互いに40歳を超えていたため、子供を持たない合意をした上で結婚をした。子供が自由にやりたいことをできるような経済的余裕を持つ、しつけをする等、子供を“しっかりと”育てなければならぬ社会的風潮に沿った子育てができる自信もない。 若い頃は自分の趣味に没頭していたため、人付き合いをあまりしていなかった。それがなければ、早めに結婚をして子供を持つという選択肢もあったかもしれない。 東京都は子育て支援が充実していると思うが、住宅コストが高いため、共働きをしないと子育ては難しいイメージがある。
	5	40代	正規の社員・職員	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 当時の同僚と3年ほど交際をし、1年超の同棲を経て結婚した。結婚願望はなかったが、相手から結婚しないと別れると言われたため結婚することとなった。結婚には、時間の自由がなくなるイメージがあった。 家事分担は、共働き時代は1:1程度であったが、パートナーが仕事を辞めてからは1:9程度となった。 以前は仕事柄子供と接する機会も多く、子供自体は好きである。妊活は時間もお金もかかるためしなかった。子供の成長を見ることは楽しいと思うが、反抗期等も考えると子育ては大変なイメージがある。 周囲に親族が住んでいない場合、東京都は周囲のサポートを受けづらく、子育てしにくいイメージがある。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(女性・グループ③)

● 女性のグループ③について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(女性③)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性③】 既婚・子供なし・ 子供意欲なし	1	20代	正規の社員・職員	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 大学時代の先輩と交際をし、同棲を経て結婚した。現在勤めている会社では既婚者に対する住宅補助が手厚いため、結婚のきっかけとなった。結婚という制度に対して懐疑的であり、自分が結婚することにも葛藤があったが、経済的なメリットも考慮して結婚した。 精神的、経済的な余裕がない、出産を機に自分のキャリアが中断してしまう、自分の持病を子供に遺伝させたくない、という理由から、子供を持ちたくないということはパートナーとも合意している。 自分の家庭に経済的な余裕がなかったこともあり、経済的な不自由がなくなる、あるいは出産時の身体的負担やキャリアへの影響がなくなれば、子供を持ちたいと思うかもしれない。 友人の話やマタニティ雑誌、マッチングアプリは多種多様な人と出会う可能性があるため、結婚相手を探す手段としては難易度が高いかもしれない。
	2	20代	正規の社員・職員	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 自分と同じ勤務先に勤める叔父からの紹介で出会い、1年ほど交際して結婚した。パートナーは6歳年上で、結婚を前提に交際を始めた。 小さい子供はかわいいと思うが、出産は女性の方に身体的な負担が掛かり、子育てをする自信もないため、子供を持ちたいとは思わない。パートナーは子供を欲しいと考えているため謝罪をしたこともある。 現状の日本の社会情勢を踏まえると子供が生まれたとしても幸せになるとは思えない。社会がもっと明るくなれば、子供を持ちたいと思うかもしれない。
	3	30代	無職・家事	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 結婚を理由に、以前の勤務先を辞めたいと考え、相手を見つけて結婚を前提に交際を開始し、同棲を3年半ほど経て結婚した。結婚に際しての障害は特になかった。 友人の子供と接する機会があるが、自分が30歳を超えた頃からかわいいと思えるようになった。 自分の身体的な特徴もあり、子供を産めない体であるため、子供を持つことは想像したことがない。パートナーにもその点は理解してもらっている。
	4	40代	派遣・嘱託・契約社員	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 20年ほど前に、共通の趣味のオンライン掲示板で知り合った相手と交際・同棲を経て結婚した。結婚に際しての障害は特になかった。 元々子供は欲しかったが、病気が発覚し子供は諦めることとなった。友人を見ていると、子供がいる生活に憧れがある。養子を迎えることも考えたが、裁判等にも費用が掛かるため、経済的な側面から断念した。 東京都は男女問わず働いている人が多いため、環境として結婚の意欲が湧きにくい印象がある。
	5	40代	無職・家事	—	—	—	0人	0人	<ul style="list-style-type: none"> 趣味のブログを通じて出会った相手と交際を始め、東京と大阪の遠距離恋愛を続けていたが、30代後半に入る頃に自分が会社を辞め、大阪に移住して入籍した。遠距離のため結婚式の準備等はパートナーの協力が得られにくく大変だったが、職場の理解もあり、退職・引き継ぎはスムーズにできた。 結婚するまで実家に暮らしており、自分の生活管理もままならないため、子育てをする自信がなく、子供を産むことは考えなかった。 パートナーの転勤が多く、大阪には親族もおらず頼れる人もいなかった。自分の幼少期に親の転勤が多く辛かったため、同じ思いを子供にも味わわせたくない。パートナーとともに東京に戻ってきたタイミングでは、既に子供を産める年齢ではなくなっていた。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(男性・グループ④)

● 男性のグループ④について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(男性④)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性④】 既婚・子供なし・ 子供意欲あり	1	20代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	2人	<ul style="list-style-type: none"> マッチングアプリで出会った相手と交際し、同棲を経て結婚した。結婚を目的に相手を探していたわけではないが、結婚して子供が欲しいという気持ちはあった。家事分担はパートナーよりも自分の方が多い。 今後1、2年以内、自分もパートナーも20代のうちに子供が欲しい。子供は二人欲しいと考えており、高齢出産は身体的な負担や子供の障害リスクも高くなるため、早く子供が欲しい。1年ほど子供ができなかった場合は通院も検討しているが、パートナーの体力の心配もあり、無理に治療することは避けたい。 子供が生まれた際は、育休を取得する予定。パートナーは時短勤務を希望している。 東京都は、特に地方出身者が子育てのサポートを得られにくい環境だと感じる。ベビーシッターや病児保育等のサポートが充実すると良い。
	2	20代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	2人	<ul style="list-style-type: none"> 結婚相手を探すためにマッチングアプリを使い、4年間の交際を経て結婚した。若いうちに子供が欲しく、20代で結婚したいと考えていた。パートナーが正規雇用に転換したことを機に経済面での懸念が小さくなったため、1年間の同棲を経て結婚した。家事分担は3:7程度で、自分の方が少ない。 大学時代のアルバイトで子供と接する機会が多く、子供がいたら楽しいイメージがある。夫婦ともに二人兄妹であるため、子供は二人欲しい。 出産後は夫婦ともにフルタイムで働き、子供は保育園に預ける想定。経済面の心配がなかったとしても、働きながら子育てをするのが理想である。 東京都は教育費無償化等の支援が充実しているため、自宅購入時も周辺県ではなく東京都を選んだ。
	3	30代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	2人	<ul style="list-style-type: none"> マッチングアプリで出会った相手と結婚した。20代の頃に5、6年交際した相手と、結婚の先延ばしが原因で別れた経験もあり、現在のパートナーとは結婚することとなった。家事分担は1:1程度である。 子育てのイメージは湧いていないが、漠然と将来的に子供がいる生活をイメージしている。夫婦ともに兄妹がいるため、子供は二人欲しい。35歳頃までには子供ができると良い。パートナーがつわりの時はサポートしたいが、サポートの仕方等を話し合えていないため、不安はある。 出産後は夫婦ともに仕事を続ける予定だが、パートナーはフルタイム・時短勤務どちらでも良い。 無痛分娩費用や不妊治療費の助成等、東京都は支援策が充実していることに加え、病院等のインフラも整っているため、子育てしやすい環境だと感じる。
	4	30代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	2人	<ul style="list-style-type: none"> 以前の勤務先の同僚と交際し、2年ほどの同棲を経て結婚した。パートナーからの同棲・結婚願望が強く、自分も子供を持つ友人が周囲に増えてきたため、結婚願望が芽生えた。家事分担は1:1程度である。 子供がいる生活のイメージは湧いていないが、自分の姉の子供と接することは多く、なるべく早く子供が欲しい。自分もパートナーも兄妹がいるため、子供は複数人欲しい。 出産後は夫婦ともに育児休業を取る予定だが、パートナーは働く意欲が強いわけではないため、どちらかと言えば専業主婦をしてほしいと考えている。
	5	40代	正規の社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 20代の頃に結婚をしたが離婚し、しばらく独身生活をしていた。コロナ禍を機に一人で生きていくことは寂しいと思い、マッチングアプリで出会った相手と交際、同棲を経て結婚した。家事分担は4:6程度で、パートナーの方が割合は大きい。 自分の兄の子供と接する機会も多く、なるべく早く子供が欲しい。不妊治療も行っているが経済的な負担も大きく、助成は増えてはいるものの、より行政からの支援が手厚くなると良い。 出産後は夫婦ともにフルタイムで働く想定であるため、家事や子育てでサービスの利用も検討している。 東京都は周辺県に比べ、医療費補助や待機児童解消、教育費無償化等、子育てしやすいイメージがある。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(女性・グループ④)

● 女性のグループ④について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(女性④)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性④】 既婚・子供なし・ 子供意欲あり	1	20代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ勤務先の同期と7年交際し、同棲を経て結婚した。将来的にパートナーの実家の家業を継ぐことへの不安があったが、パートナーにその意向がないことが分かり、結婚した。 ・ 元々子供が好きで、子供が欲しい人でないと結婚は考えられなかった。夫婦ともに兄妹がいるため、子供は二人欲しい。妊活を始めたが不妊治療に関する知識が少なく、医療機関から情報提供があると良い。 ・ 東京都は車を持つことも難しく、ショッピングセンター等で子供が遊ぶことも難しいため、子育てには不便な印象がある。千葉に家を建てる予定であり、出産を機に会社を辞めることも考えている。 ・ 望む人が子育てしやすい社会になるためには、不妊治療等の知識を義務教育で教えることが必要だと感じる。不妊治療にかかる期間などを周知することで、不妊治療が選択肢として認知されることが重要。
	2	20代	派遣・嘱託・契約社員	—	—	—	2人	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の知人を経由してSNSで知り合った相手と、1年の交際を経て結婚した。結婚当時に仕事を辞めるか悩んだが、会社は変えずに在宅でできる仕事に切り替え、パートナーが住む東京に移り住むことにした。 ・ 職場の9割以上が女性であり、子育てをしながら働いている女性も多い。自分は三人兄妹だが、母親が楽しそうに子育てをしている姿を見て、自分も子供が欲しいと思った。子供は複数人欲しいが、東京は家の広さも限られるし、夫婦ともに地方出身で子育ての際に親の援助も受けられないため、三人以上は難しいと思う。 ・ パートナーの両親に不妊治療の経験があるため、自分は早いタイミングで子供を産みたいと考えている。 ・ 東京都は、妊婦に対する手当や子供の医療費に対する補助が多いイメージがある。
	3	30代	正規の社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友人との集まりで出会った相手と2年弱の交際を経て結婚した。結婚願望が強くあったわけではなく周囲の友人にも結婚をしている人はいなかったが、パートナーとの価値観も合っていたため結婚した。結婚することに抵抗はなかったが、結婚と仕事の両立に悩むことはあった。 ・ 30歳を過ぎてから周囲に子供を持つ人が増え始め、そろそろ子供を作ろうと考えていた矢先に病気が発覚し、その症状が落ち着かない限りは子供を産むことは難しい。漠然と子供は二人持つイメージがあったが、経済面や生活・家事の負担も考えると、一人が限界だと感じる。 ・ 現在の職場は出社が多く身体的な負担が大きい。パートナーはテレワークが基本であるため羨ましい。家事や育児と仕事の両立のために、会社側からの配慮が欲しい。
	4	30代	自営業主・家族従業者・内職	—	—	—	2人	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新卒で入社した勤務先の同期と5年ほどの交際を経て結婚した。 ・ 結婚してから漠然と子供を持つことについて考えるようになった。自分は一人っ子で兄妹が欲しいと思ったことがあるため、子供は二人でも良いが、特別なこだわりはない。 ・ 妊活も始めているが、不妊治療や出産にどの程度の費用がかかるか分からず、不安がある。フリーランスで働いているため、会社から育児休業等の手当がでないことにも不安がある。 ・ 東京都は住居が狭いため、出産後はお互いの地元に移り住む可能性はある。
	5	40代	派遣・嘱託・契約社員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲に結婚・出産をする人が増え始め、自分の年齢も考慮すると子供を産むためには早く結婚をしなければならぬと感じ、知人から勧められ30代半ば頃に結婚相談所に登録し、出会って半年で結婚した。 ・ 結婚当初はどうしても子供が欲しいという気持ちはなかったが、結婚生活が落ち着いてきたことや、自分の年齢も考慮して、子供が欲しいと思うようになった。 ・ パートナーは仕事が忙しく家事を一切しないため、結婚後は家事の負担が大きく、仕事との両立が難しくなり職場を変えざるを得なかった。仕事しながら子育てしたいが、出産後の家事・育児と仕事の両立には不安がある。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(男性・グループ⑤)

● 男性のグループ⑤について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(男性⑤)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性⑤】 既婚・子供意欲あり (もしくは子供あり)・ 理想の子供数と予定 の子供数の差1人以上 (理想>予定)	1	20代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 結婚相手を見つけるために参加した、趣味を通じた街コン・山登りコンパを通じて出会った相手と3年ほど交際、同棲を経て結婚した。マッチングアプリは知り合いとマッチする懸念があり、抵抗があった。家事分担は4:6程度で、パートナーの方が負担は大きい。 学生時代から、若いうちに結婚をして子供が欲しいという気持ちがあった。理想の子供の人数は二人だが、パートナーの子育てに対する自信・不安や、経済面を考慮すると一人が現実的。経済面での余裕があったとしても、子育て負担を考えると二人が限界だと感じる。 地方出身者は実家からのサポートを受けづらいため、東京都は子育てしづらい環境にあると感じる。自分の職業は都心部と地方部で給与が大きく異なるため、東京都に住み続ける予定である。
	2	20代	正規の社員・職員	—	—	—	3人	2人	<ul style="list-style-type: none"> パートナーとは結婚相談所で出会った。マッチングアプリも使ったことがあるが、結婚にはつながりにくい印象がある。家事分担は1:1程度で、ややパートナーの負担が少ない。 色々な考え方があってと思うが、少子化が進む中で、子供を持つことは社会的にも意義がある。自分に兄妹がいるため子供は複数人が良く、理想の子供の人数は三人だが、パートナーの身体的な負担や経済面を考慮すると二人が現実的。 育児と仕事の両立にあたっては、自分の働き方を子育てに合わせて調整する必要があると考えているが、場合によっては近隣県にあるパートナーの実家を頼ることもあるかもしれない。 東京都は周辺県よりも教育の質が高いイメージがあるため、東京都に住み続ける予定である。
	3	30代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 結婚相手を探すために始めたマッチングアプリで出会った相手と1年ほど交際して結婚した。元々35歳前後には結婚したいと考えていたが、周囲に結婚をする友人が増え、気軽に遊ぶ友人が少なくなってきたため、自分も結婚しようと考えた。家事分担は6:4程度で、自分の負担の方が大きい。 元々子供は二人欲しいと考えていたが、住宅コストを考えると一人が無難。一人目が生まれてから二人目は考えたい。出産後は夫婦ともに仕事を続ける想定だが、自分の仕事が忙しいため、転職も考えている。 東京都は子育て支援が充実していることに加え、仕事等の選択肢も多いため、自分にとっても子供にとっても良い環境であると感じる。望む人が子育てをするには、比較的若いうちに卵子凍結をする等、子供ができる確率を高められるような情報提供・支援があると良い。
	4	30代	自営業主・家族従業者・内職	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 友人の紹介で出会った相手と2年ほど交際し、同棲を経て結婚した。30歳を超えると、結婚し子供を持った友人からのプレッシャーがあった。家事分担は3:7程度で、パートナーの負担が大きい。 理想の子供の人数は二人だが、自分の年齢も踏まえ、妊活や不妊治療で医療機関に通う負担が大きいため、二人目以降は考えられない。元々は20代で結婚して36歳までに子供を三人持ちたいと考えていた。 東京都内の保育施設にいつ入れるか分からない状況に不安はあるものの、パートナーの仕事の都合もあり、東京都以外に住むことは考えていない。
	5	30代	正規の社員・職員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 勤務先の同期と5年ほど交際し結婚した。自分は転勤で東京に移ったが、遠距離恋愛が続いたため、パートナーが仕事を辞めて東京に来る形で結婚した。家事分担は4:6程度で、パートナーの負担の方が大きい。 理想の子供の人数は二人だが、養育費、教育費を踏まえると一人が現実的。一時期は妊活にも取り組んでいたが、特にパートナーの身体的・精神的な負担を考慮し、現在は通院等はしていない。 子育てしやすい環境を作るには、休暇取得のしやすさやテレワークの推進等、職場環境の変化が必要。 東京都は公園や学校も多く、地方よりも子育て環境は整っているイメージがあるが、住宅コストが高いため、それを打ち消す程度の金銭的な補助があると良い。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(女性・グループ⑤)

● 女性のグループ⑤について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(女性⑤)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性⑤】 既婚・子供意欲あり (もしくは子供あり)・ 理想の子供数と予定 の子供数の差1人以上 (理想>予定)	1	20代	派遣・嘱 託・契約社 員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ マッチングアプリで出会った相手と3年ほど交際、同棲を経て結婚した。パートナーとの相性や、周囲から遅れているという感覚もあり、結婚したいと思うようになった。家事分担は1:1程度で満足している。 ・ 子供は苦手で子育ての自信もないが、パートナーは子供が欲しいと考えており、パートナーは自分の体調のサポート等もしてくれるため、子育てへの安心感につながった。 ・ 夫婦ともに兄妹がいるため理想の子供の人数は二人だが、経済面・精神面を考えると一人が限界と感じる。経済的な余裕があれば二人目を考えるかもしれないが、仕事で時間の余裕がない場合は、二人目は難しい。 ・ 住宅コストや物価を考えると、子供が小学校に上がる頃に郊外に移り住むことも検討しているが、018サポートや教育費無償化等の手厚い支援を踏まえると、東京都に住んでいた方が良いかもしれない。
	2	30代	派遣・嘱 託・契約社 員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生時代に交際を始めた相手と、遠距離恋愛を経て、最終的には自分が東京に移り住む形で結婚した。家事分担は6:4程度で自分の負担が大きいが、パートナーの方が忙しいため仕方ないと感じる。 ・ 子供を欲しいとは思っていなかったが、仕事の中で徐々に子供がかわいいと思えるようになり、周囲の友人も子供を持ち始めるようになったため、現在は子供が欲しいと考えている。 ・ 理想の子供の人数は二人だが、不妊治療も行っているため、一人でできれば良い。現在の自身の仕事は融通が利きやすいため子育て上の不安はないが、経済面での懸念は大きい。 ・ 子育て支援としては、経済的な補助に加え、親族の協力が得られにくい場合でも安心してフルタイムで働けるよう、延長保育等のサポートが受けられるようなサービスがあると良い。
	3	40代	正規の社 員・職員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友人の紹介で出会った相手と9年の交際を経て結婚した。パートナーは結婚自体に関心がなかったが、自分が40歳を迎える頃に子供が欲しいと思い結婚した。家事分担は9:1程度で自分の負担が大きい。 ・ 幼少期から子供が好きで、子供が欲しいと考えていたが、パートナーは子供が好きではなく、5歳年下ということもあり、交際当初は子供に対する考え方が合わなかった。 ・ 自分に兄妹がいるため、理想の子供の人数は二人だが、年齢的にも自然妊娠の確率が低いことを知った。パートナーは特に子供に良い教育を与えたい気持ちが強く、教育費等の経済面を考慮しても、一人が限界と感じる。経済面の懸念がなければ、子供を複数人持ちたいと思うかもしれない。 ・ 東京都は通勤電車等の人混みも多く、自宅に近い保育園に入れなかった場合に、子供を連れながらの通勤は難しい。パートナーは都心に住みたい意欲があるが、自分としては郊外に住みたい気持ちがある。
	4	40代	正規の社 員・職員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20代で一度結婚したが、12年ほど結婚生活を続けて離婚し、その後友人の紹介で出会った相手と2か月で結婚した。パートナーの仕事が忙しく、家事はほぼ自分が担当している。 ・ パートナーは子供を欲しいと考えているため、子供を持つことを意識するようになった。5年ほど不妊治療をしているが、自分の体調の都合や親の介護等もあり、治療が続けられないタイミングもあったため、子供は一人でできれば十分と考えている。子供を育てながら親の介護をすることに不安がある。 ・ 東京都は自宅近く保育園に入れない懸念があるが、不妊治療の支援が手厚いため、住み続ける予定。
	5	30代	派遣・嘱 託・契約社 員	—	—	—	2人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚相談所に登録し、半年ほどで結婚した。コロナ禍を機に一人での寂しさを感じたことや、自分の年齢を踏まえ結婚したいと思うようになった。家事分担は6:4程度で、自分の負担がやや大きい。 ・ 元々子供が欲しいとは考えていなかったが、自分の生活にも満足し、子供が欲しいと思うようになり、不妊治療を機に正社員から契約社員に切り替えた。子供ができなかった場合は養子縁組も検討している。 ・ 東京都は018サポートや不妊治療費助成等の支援が手厚いが、地元の方が地価や物価が安く親がいる安心感もあるため引っ越したい。一方で、教育の質等を考慮すると、東京の方が良いかもしれないと思う。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(男性・グループ⑥)

● 男性のグループ⑥について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(男性⑥)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性⑥】 既婚・子供1人・ 理想の子供数1人	1	30代	正規の社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の知人が設けた集まりで出会った相手と、5年ほど交際して結婚した。家事分担は1:1を目指しており、お互いに納得している。 ・ 結婚して2年目にパートナーが子供を意識するようになり、自分の親に孫の顔を見せられることや、出産を機に親や制度面での補助が受けられることも後押しとなり、子供を持つことになった。 ・ 自分に兄妹がいるため子供は二人をイメージしていたが、子供の夜泣きや外出中の痾癪等、子育ての負担から一人が限界と感じる。時間と経済面での余裕があればもう一人持つことは考えるかもしれない。 ・ 一人目の子育てが大変なままでは、二人目は考えられない。二人目以降を考えられるよう、まずは一人目の子育ての負担感がなくなるような支援策を行うべき。
	2	40代	正規の社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場の業界団体の集まりで出会った相手と1年交際して結婚した。交際当初からお互いに結婚を意識していたが、両家の相性が悪く、やや結婚の障壁となった。家事分担は9:1程度で自分の負担が大きく不満はあるが、パートナーの方が仕事が忙しいため割り切っている。 ・ 子供が欲しいとは考えていなかったが、両家からのプレッシャーもあり、結婚して10年ほど経過したタイミングで子供ができた。難産だったため二人目は考えていないが、一人目が早いタイミングででき、かつ難産でなければ、二人目も考えたかもしれない。 ・ 保育園が自宅から遠く、夜遅くまで預かってもらえないため、夫婦ともにフルタイムで働きながら子供を育てるのは一人が限界と感じた。病児保育やベビーシッター派遣等、金銭面以外の支援が充実すると良い。
	3	40代	正規の社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインのマッチングサイトで出会った相手と、半年ほど交際して結婚した。30代後半で結婚したが、それ以前は経済的な余裕がなく、結婚は難しいと考えていた。家事分担は1:9程度で、時短勤務をするパートナーの負担が大きい。 ・ 後世に遺伝子を残したい、自分の親に孫の顔を見せたいという思いから子供が欲しいと思った。パートナーの年齢も考慮して不妊治療クリニックに通ったことで、無事自然妊娠ができた。 ・ パートナーは二人目が欲しいと考えていたようだが、育児をする中で体力的な限界を感じた。5年早く一人目の子供を産んでいれば、二人目は考えていたと思う。 ・ 会社の制度として、子供が体調を崩した際に柔軟に時間を調整して子供を迎えに行けるような仕組みがあると良い。東京都の子育て支援は、他の自治体に比べて手厚いイメージがある。
	4	40代	正規の社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当時の勤務先の同僚と、3年交際して結婚した。家事分担は4:6程度で、パートナーの負担が大きい。 ・ 結婚してから長らく夫婦ともに長時間労働で、子供が欲しいとは考えていなかった。ある時パートナーが、体調を崩して1年間休職をした際に、子供を作る最後のチャンスと考え、不妊治療を経て自分が46歳の時に子供を産んだ。 ・ 自分の年齢や経済面を考慮すると、子供の数は一人が限界と感じる。 ・ 子供が体調を崩した際のお迎えが大変。ベビーシッターの費用も高く、利用のハードルは高い。
	5	40代	正規の社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校時代の同級生と社会人になってから交際し、1年経たずに結婚した。パートナーは専業主婦を希望しており、家事は基本パートナーが担当している。 ・ 結婚して3年が経過した頃に海外駐在となり、その間に子供が生まれた。地方出身であるため、結婚して子供を持つのは当たり前という感覚だった。海外赴任中は、子供一人の家庭が周囲に多かったが、帰国すると子供が複数人いる家庭も多かったため、日本で一人目を産んでいたら、二人目も考えたかもしれない。 ・ 子供の医療費や教育費の補助は非常に助かるが、学習塾等の校外教育費も考慮すると負担は大きい。

2.2. 主な発言・意見一覧(グループ別)

主な発言・意見一覧(女性・グループ⑥)

● 女性のグループ⑥について、インタビュー対象者から主に得られた発言・意見は下表の通り。

主な発言・意見一覧(女性⑥)

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 経験	婚活 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性⑥】 既婚・子供1人・ 理想の子供数1人	1	20代	無職・家事	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 居酒屋で勤務していた際の常連客と仲良くなり、1年半の交際を経て結婚した。 里帰り出産をして、パートナーも毎週東京から来てくれたが、子育てに全く関与しない姿を見て二人目を持つことは考えなくなった。 同じ人が何度も家庭訪問してくれるような子育て支援があると、子育ての相談等がしやすくなって良い。自分から行かない限り保健所の人は来ないため孤独だった。018サポートも助かっているが、赤ちゃんファーストギフトは商品選びに時間がかかるため、引換券をもらえる形の方がありがたい。アンケートを頻繁にとつて子育て家庭の声を聞くとともに、カタログの内容がその時々で改良されているのは良いと思う。支援は充実しているため、東京都外に住むことは考えていない。
	2	30代	自営業主・家族 従業者・内職	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 大学の先輩と大学時代に交際を始め、互いに上京したタイミングで同棲をして結婚した。 元々子供は苦手で、子供を持つことは考えていなかったが、友人が子供を連れて家に遊びに来た際に、パートナーが子供と楽しそうに遊んでいる姿を見て、パートナーのために子供を産みたいと思った。自分に兄妹がいるため、子供は二人をイメージしていたが、一人目の出産が過酷だったため二人目は考えていない。 育休後に復職したが、職場の理解が得られず育児と仕事の両立が難しくなり、フリーランスに転向した。 東京都の子育て支援は手厚くなっているが、教育費や生活コストの負担も大きい。医療従事者は地域によって給与が大きく異なるため、東京都外に住むことは考えていない。
	3	30代	パート・ アルバイト	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 趣味のサークルで出会った相手と交際し、1年以内に結婚した。早く結婚して子供を産みたいという思いがあった。パートナーの母親との相性が悪く、結婚を後悔したこともあった。 自分が母親と仲が良かったため、女の子が欲しいと考えており、一人目が女の子だったため満足している。一人目が男の子だった場合は二人目も考えたかもしれないが、育児ノイローゼになった経験もあり、子育ての苦労を考えるともう一人産みたいとは思わない。 経済面では困っていないため、育児の伴走支援をしてくれるようなサービスがあると良い。同じ人が何度も訪問してくれるようなサービスがあると、相談もしやすい。
	4	40代	正規の 社員・職員	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 友人が開いた合コンで出会った相手と半年交際し、授かり婚の形で結婚した。自分の親が、結婚と出産の順番を重んじたため、結婚のための説得が面倒だったが、出産前に結婚することができた。 元々子供は苦手で、仕事も充実しており独身のままで良いと考えていた。妊娠が分かった際は、出産する選択がしかなかったが、あまり前向きではなかった。 “ママ友コミュニティ”に所属しないと、幼稚園や小学校、医療機関の情報が入ってこないことを知った。 無痛分娩費用の補助が予定されているらしいが、つわり等の出産までの身体的な負担が辛かったため、出産に係る補助があったとしても、二人目を産みたいとは思わない。保育料や給食、高校授業料の無償化はありがたいと感じる。
	5	40代	パート・ アルバイト	—	—	—	1人	1人	<ul style="list-style-type: none"> 以前の勤務先の同僚と結婚した。当時は結婚をして仕事を辞める人も多く、自分の体調も優れなかったため、結婚を機に仕事を辞めた。 当時は、結婚をすれば子供を産むのが当たり前だった。自分は三人兄妹であるため、子供を複数人持ちたい思いはあったが、一人目の出産が難産だったため、二人目は考えなかった。 結婚を機に東京に住むこととなったが周囲に子育てで頼れる存在がらず、また、幼稚園や学校の状況が地方部とは大きく異なったため苦労した。 当時は外部の子育て支援サービスに頼る発想がなかったが、現在は手厚くなっているように感じる。

2.3. 類型化・整理結果

2.3.1. 出会い・結婚

出会い・結婚 インタビュー結果の整理・類型化

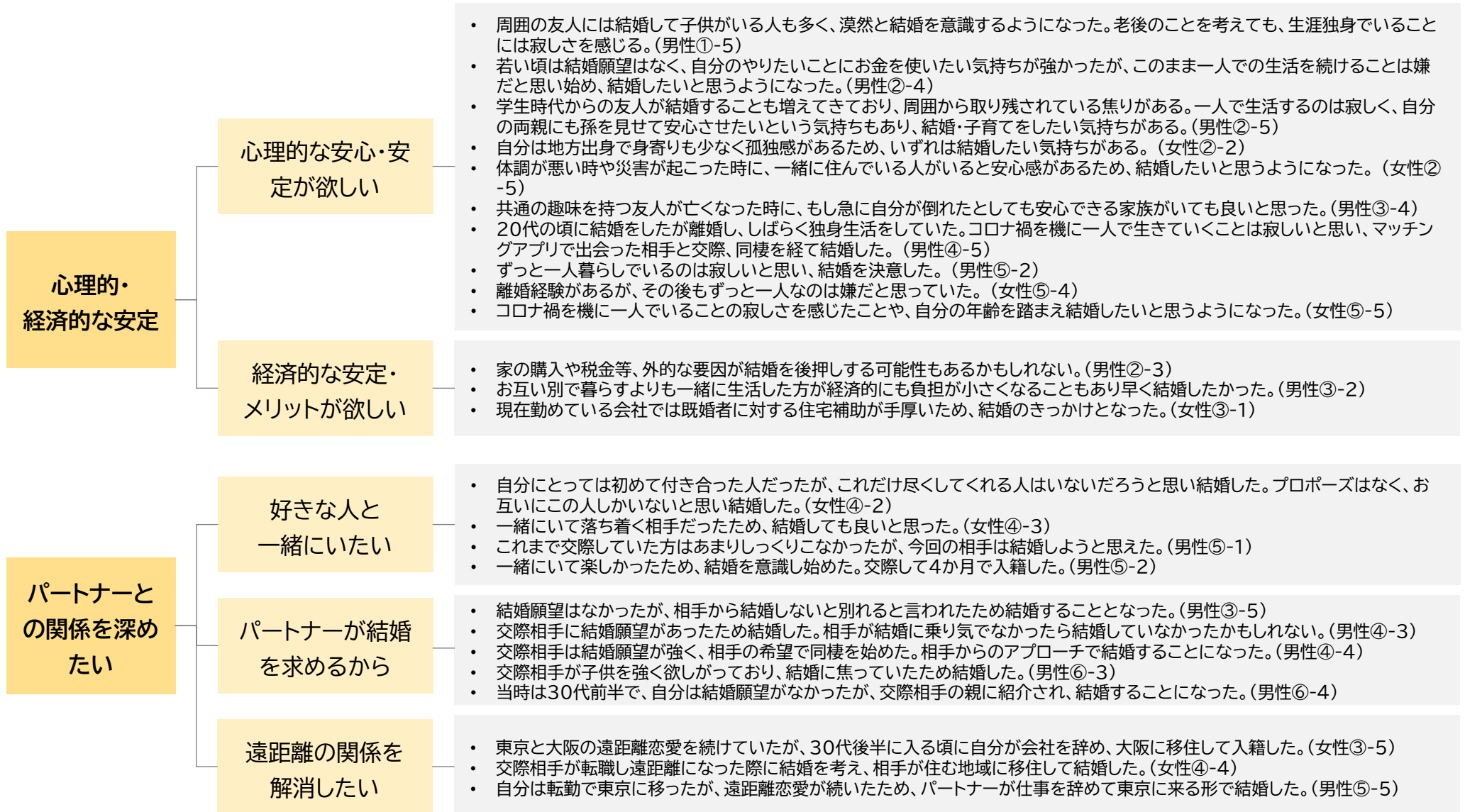
- 出会い・結婚についてのインタビュー結果は、「結婚した/したい理由」「結婚したくない/しない理由」「結婚のきっかけ、機会」「結婚にあたっての課題、障壁」の4つの項目で整理し、各項目に関して得られた発言・意見の類型化を行った。

出会い・結婚 インタビュー結果の整理・類型化

整理項目	主な発言・意見の類型	該当ページ
結婚した/したい理由	①心理的、経済的な安定	p.26
	②パートナーとの関係を深めたい	p.26
	③家庭を築くことへの願望	p.27
	④周囲の影響	p.28
	⑤年齢・時間的な要因	p.28
結婚したくない/しない理由	①結婚のメリットがない	p.29
	②交際相手を見つけられない	p.29
結婚のきっかけ、機会	①既存コミュニティを通じた出会い	p.30
	②交際、結婚相手を探すための行動	p.31
結婚にあたっての課題、障壁	①出会い・パートナー選びに関する課題	p.32
	②経済面での課題	p.32
	③家族間の人間関係の課題	p.33
	④結婚後のライフスタイルに関する懸念	p.33
	⑤心理的・制度的な課題	p.34

結婚した/したい理由 ①心理的、経済的な安定、②パートナーとの関係を深めたい

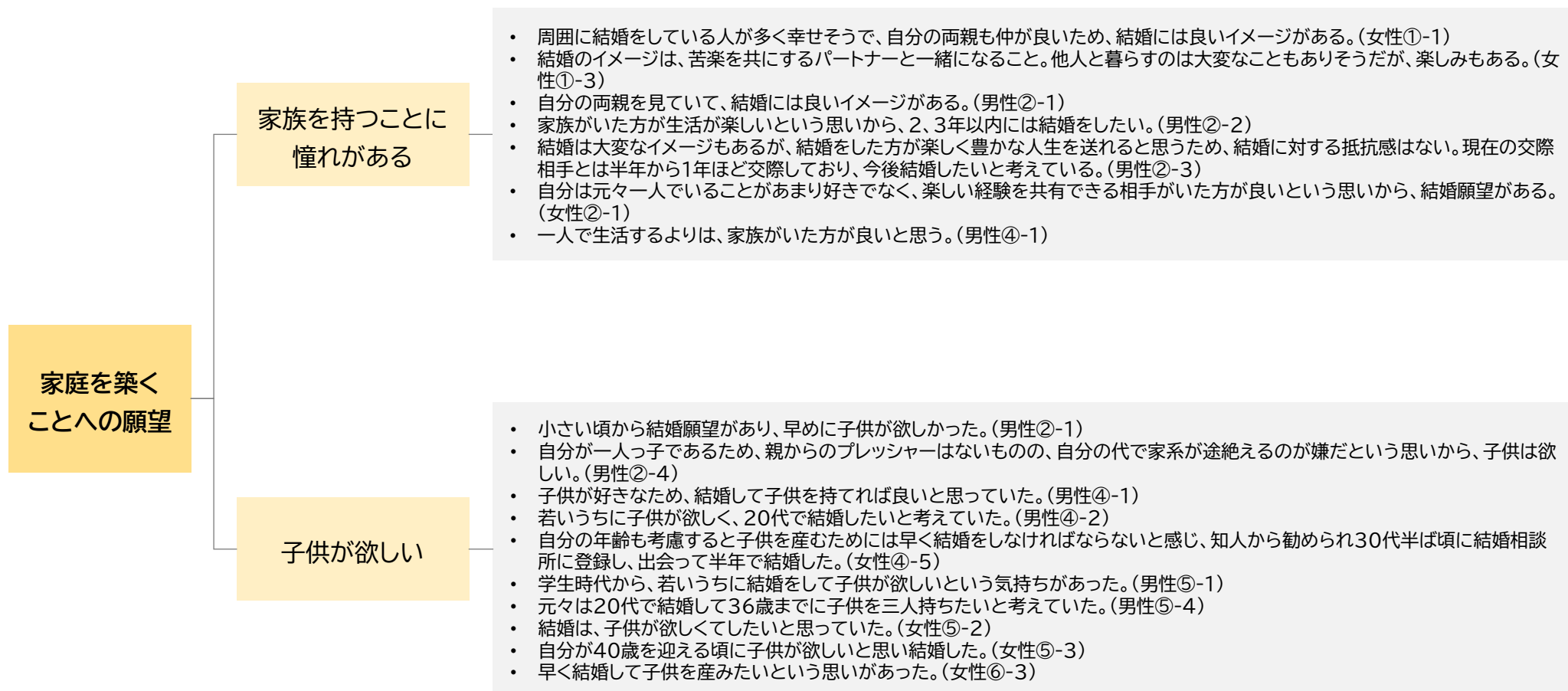
主な発言・意見



※アンケート調査では、結婚したい理由として、「好きな人と一緒に生活したいから」「精神的な安らぎの場を持ちたいから」と回答した割合が高かった。

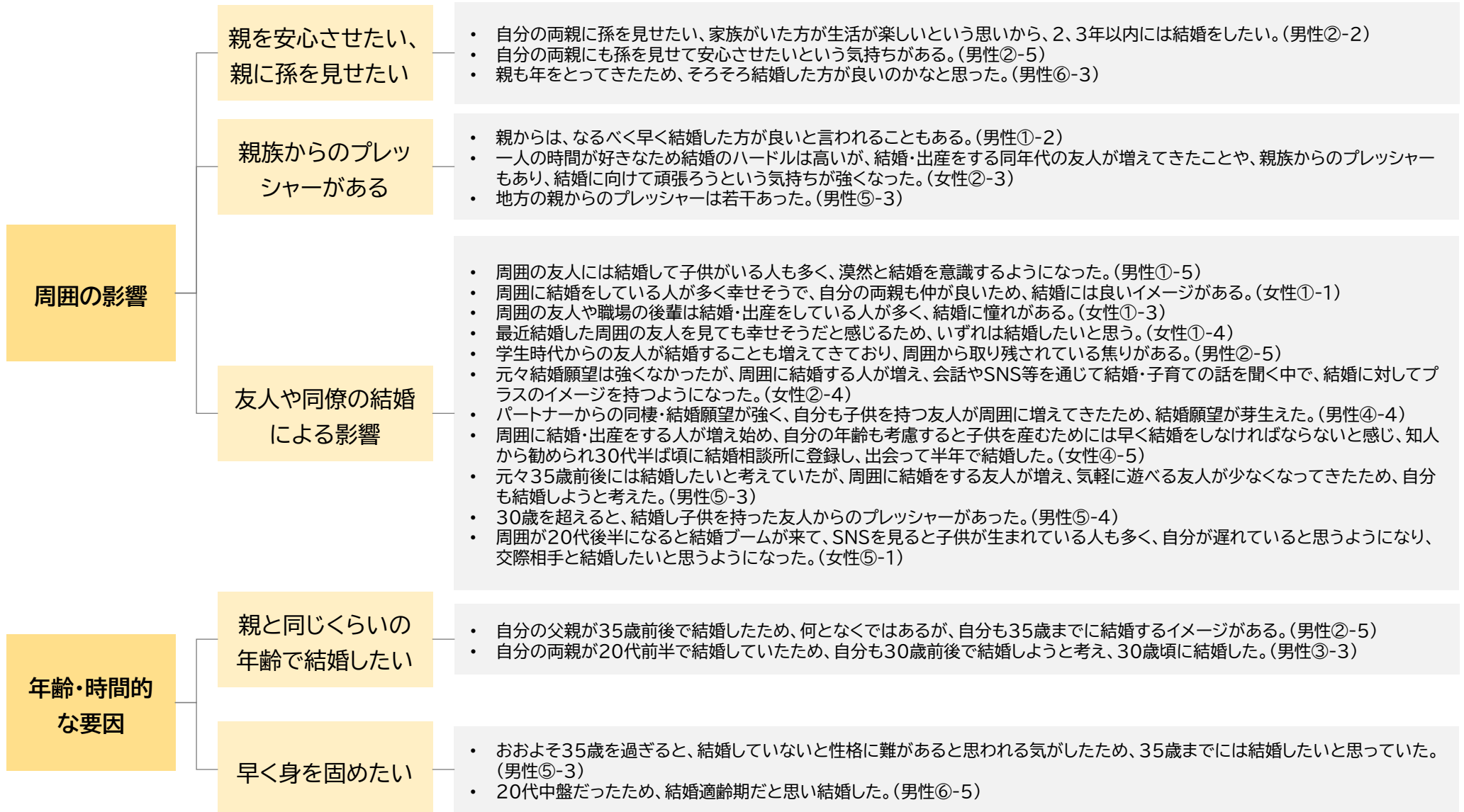
結婚した/したい理由 ③家庭を築くことへの願望

主な発言・意見



結婚した/したい理由 ④周囲の影響、⑤年齢・時間的な要因

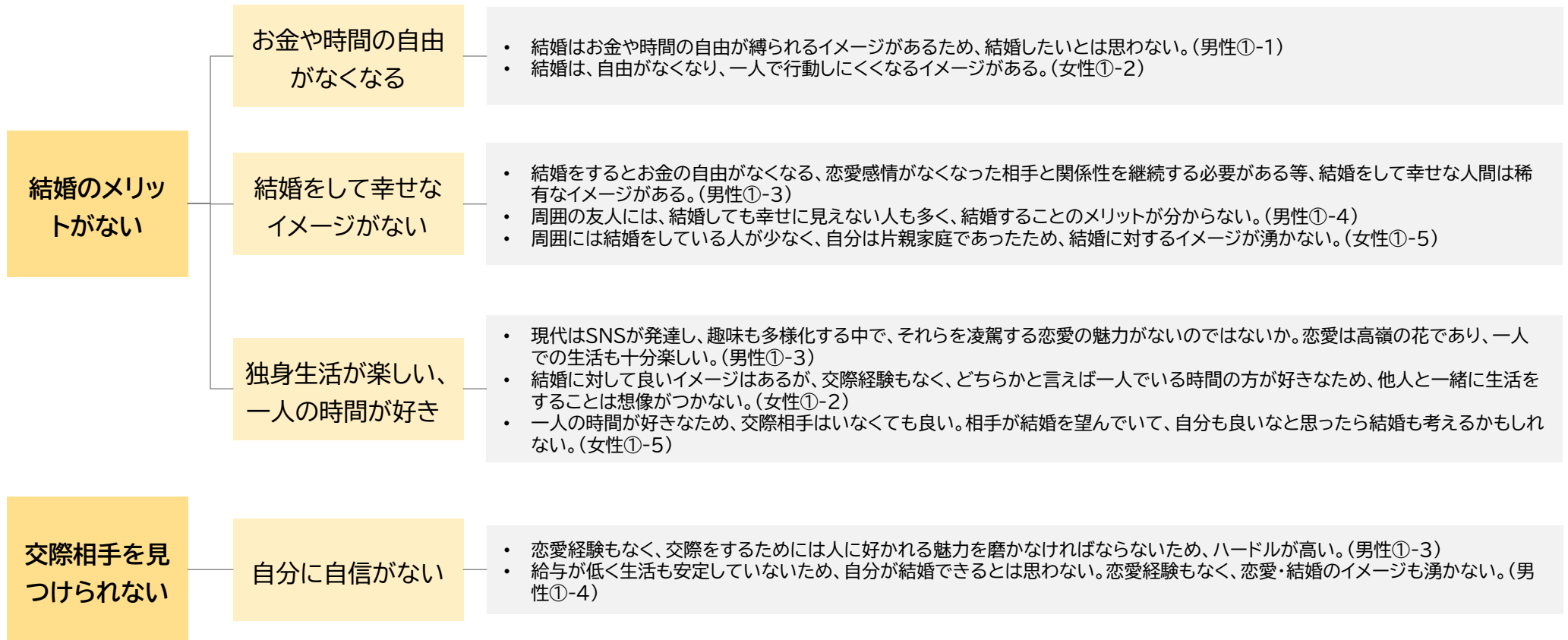
主な発言・意見



※アンケート調査では、結婚したい理由として、「社会的に認められたいから」と回答した割合は、男性で高く、女性で低かった。

結婚したくない/しない理由 ①結婚のメリットがない、②交際相手を見つけれない

主な発言・意見



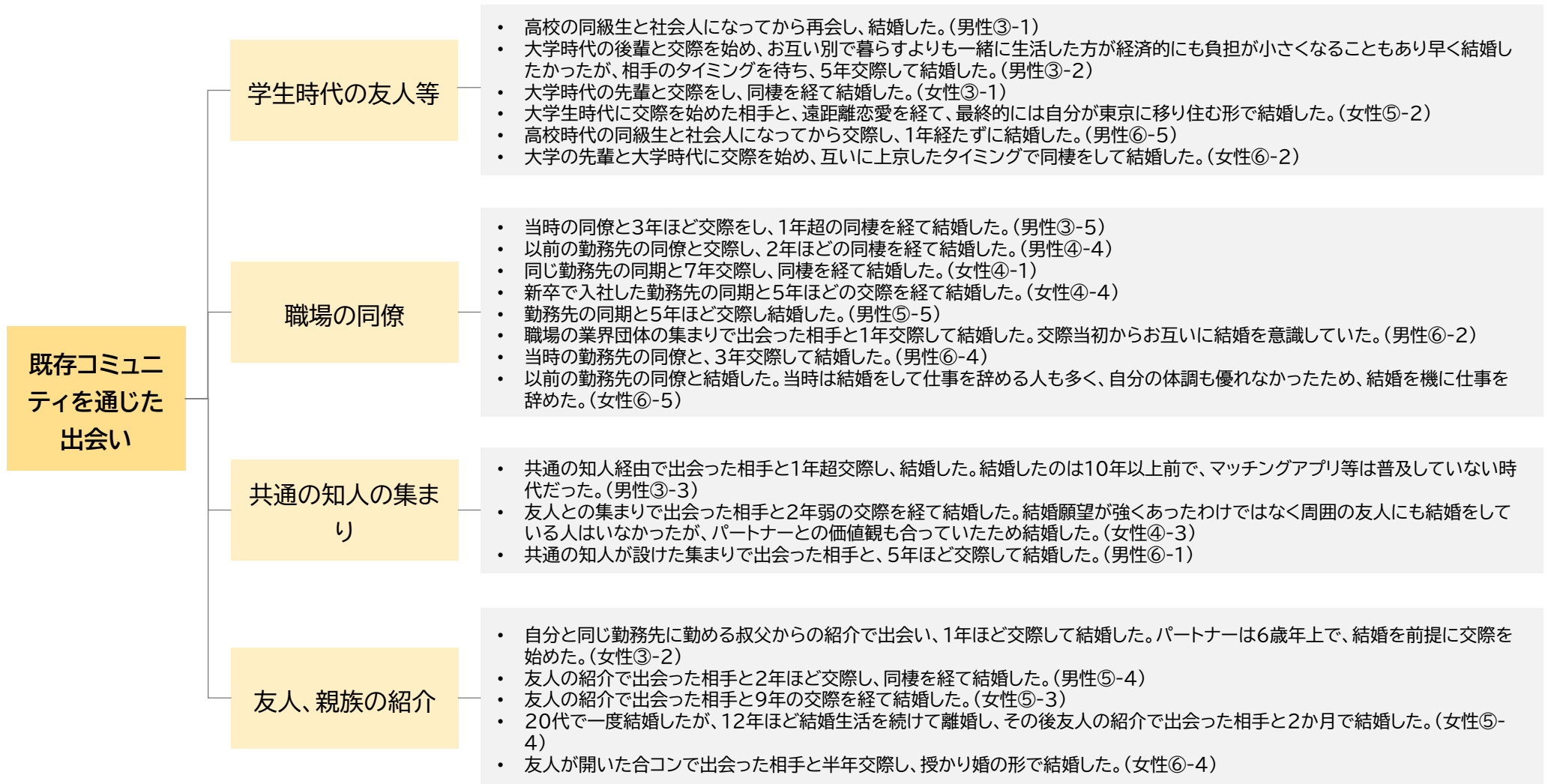
※1 アンケート調査では、結婚するつもりがない理由として、「一人が楽で、今の生活に満足しているから」と回答した割合が最も高かった。

※2 アンケート調査では、交際、結婚に向けた活動をしていない理由として、「自然と出会いたい」「自信がなくて活動できない」「億劫だと感じる」と回答した割合が高かった。

※3 アンケート調査では、結婚に対する考え方として、交際経験がない層で「いずれ結婚したいと考えていて、タイミングや条件が整えば結婚の希望が叶うだろう」と回答した割合が低かった。

結婚のきっかけ、機会 ①既存コミュニティを通じた出会い

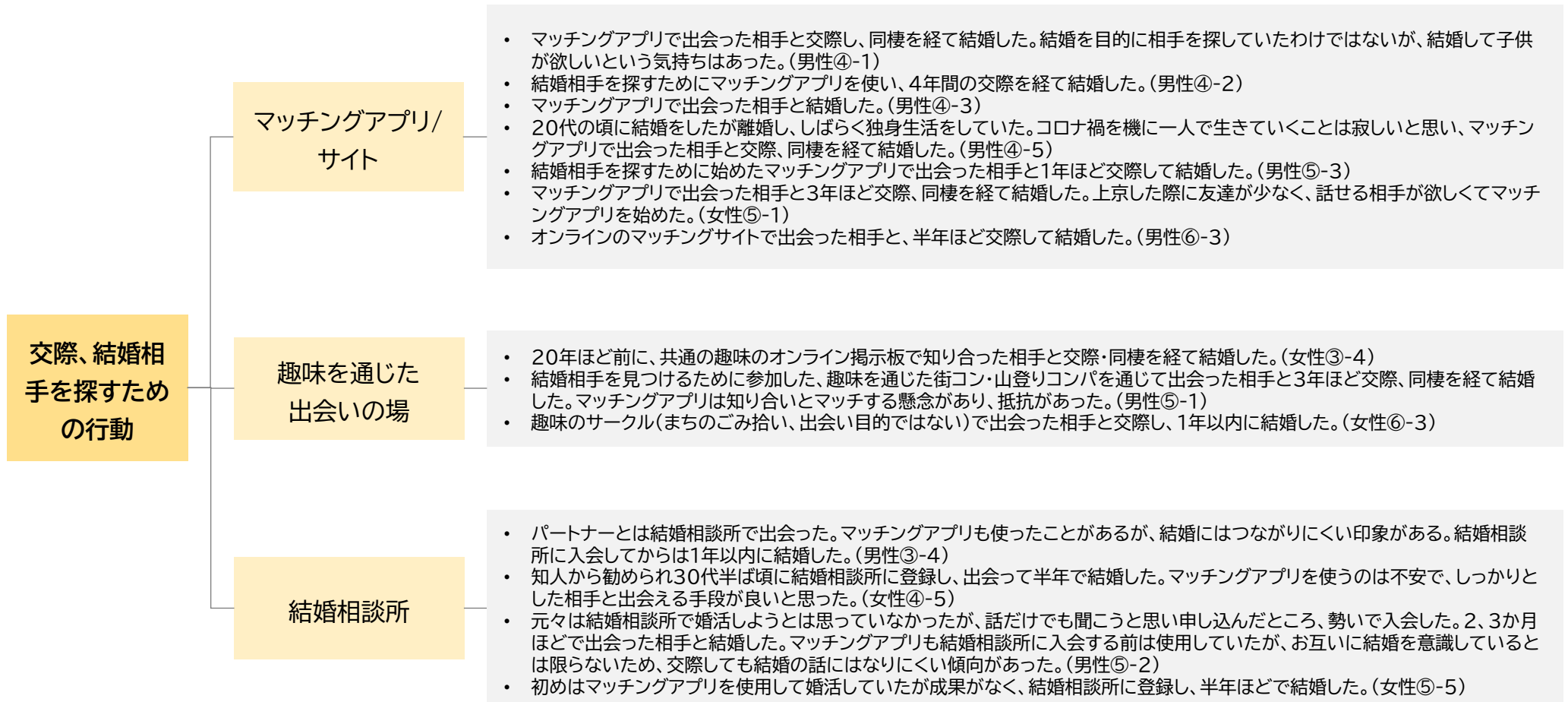
主な発言・意見



※アンケート調査では、配偶者・パートナーと知り合ったきっかけとして、「職場や仕事、アルバイトの関係」「友人の紹介」と回答した割合が高かった。

結婚のきっかけ、機会 ②交際、結婚相手を探すための行動

主な発言・意見



※アンケート調査では、交際、結婚に向けた活動の実施状況として、「出会いを意識した生活はしていない」と回答した割合が最も高かった一方、積極的な活動については「マッチングアプリ/サイト」と回答した割合が最も高かった。

結婚にあたっての課題、障壁 ①出会い・パートナー選びに関する課題、②経済面での課題

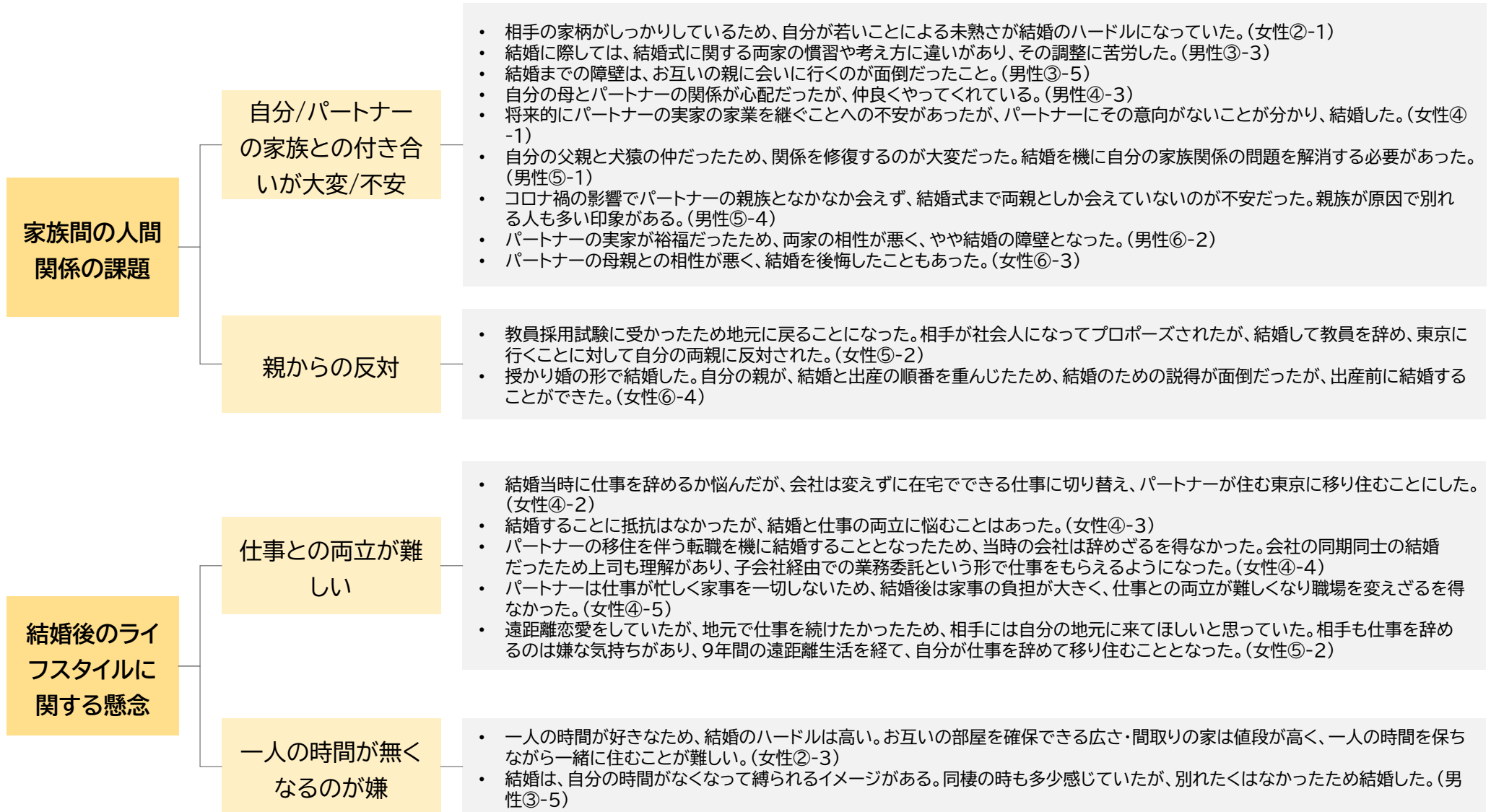
主な発言・意見

	アプリでの マッチング	<ul style="list-style-type: none"> ・ マッチングアプリを使ったこともあるが、詐欺を目的とした利用者も多く、今後使おうとは思わない。(男性①-4) ・ マッチングアプリは初対面のコミュニケーションが難しく、変わった人も多いイメージがあり、自分には合わずやめた。(女性①-4) ・ 友人の結婚式の二次会や、婚活パーティのような集まりで交際・結婚相手を探している。マッチングアプリも使っていたが、交際目的ではない利用者もいるため、あまり信用していない。(男性②-1) ・ マッチングアプリは、マッチングはしても会ってからなかなか続かない。良いと思った相手でも連絡がつかなくなったり、自分から気持ちが冷めたりすることもある。(男性②-2) ・ マッチングアプリを使っているが、信頼関係の構築に時間がかかり、交際には発展しないことが多い。(男性②-4) ・ マッチングアプリは使うのが面倒なため積極的には使っておらず、気が向いた際に使っている。(女性②-3) ・ マッチングアプリは相手に返事をするのが面倒。一人の時間を大切にしたいため、仕事終わりの疲れた時間に使うのは大変。(女性②-4) ・ マッチングアプリを使っているが、経歴詐称や詐欺が怖くなり、あまり使わなくなった。(女性②-5) ・ 学生時代のコミュニティ等は、一定程度似た境遇の人が多く、友人の話を聞くと、マッチングアプリは多種多様な人と出会う可能性があるため、結婚相手を探す手段としては難易度が高いかもしれない。(女性③-1)
出会い・パートナー選びに関する課題	結婚相手に求めるハードルが高い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚願望は強いので、恋愛・結婚相手に求める条件を妥協して、より視野を広げた方が良いと思う。(女性①-1) ・ 出会いを見つけることよりも、結婚相手を選ぶ妥協点を探すことが難しい。SNSで情報が増える中で、自分にとっての理想を追い求めてしまう側面もある。自分の価値基準を大事にすることが難しい。(女性②-2) ・ 心穏やかになれる相手を見つけるのが難しい。自分が完璧主義なところがあり、悪いところが目についてしまう。(女性②-3)
	婚活に充てる時間がない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の趣味や仕事、実家で両親と暮らしているということを考えると、交際相手を作る時間がない。婚活などを努力できる環境があれば結婚もできなくはない気がするが、忙しい側面もあってできない。(男性①-2) ・ 職場が遠く朝も早く、平日の仕事で疲れ切ってしまう。ライフスタイルを変えないと出会いを探すことも難しい。(女性①-3)
経済面での課題	経済的な不安	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給与が低く生活も安定していないため、自分が結婚できるとは思わない。(男性①-4) ・ 結婚相談所を使うことも考えたが、料金が高く支払える自信がない。(女性①-3) ・ パートナーが正規雇用に転換したことを機に経済面での懸念が小さくなったため、1年間の同棲を経て結婚した。相手が非正規雇用だったため、正規雇用になったら結婚しようと思っていた。元々正規雇用であれば、結婚も早まったかもしれない。(男性④-2) ・ 30代後半で結婚したが、それ以前は経済的な余裕がなく、結婚は難しいと考えていた。30代後半で徐々に給料が上がってきて、結婚できると思うようになった。(男性⑥-3)

2.3.1. 出会い・結婚

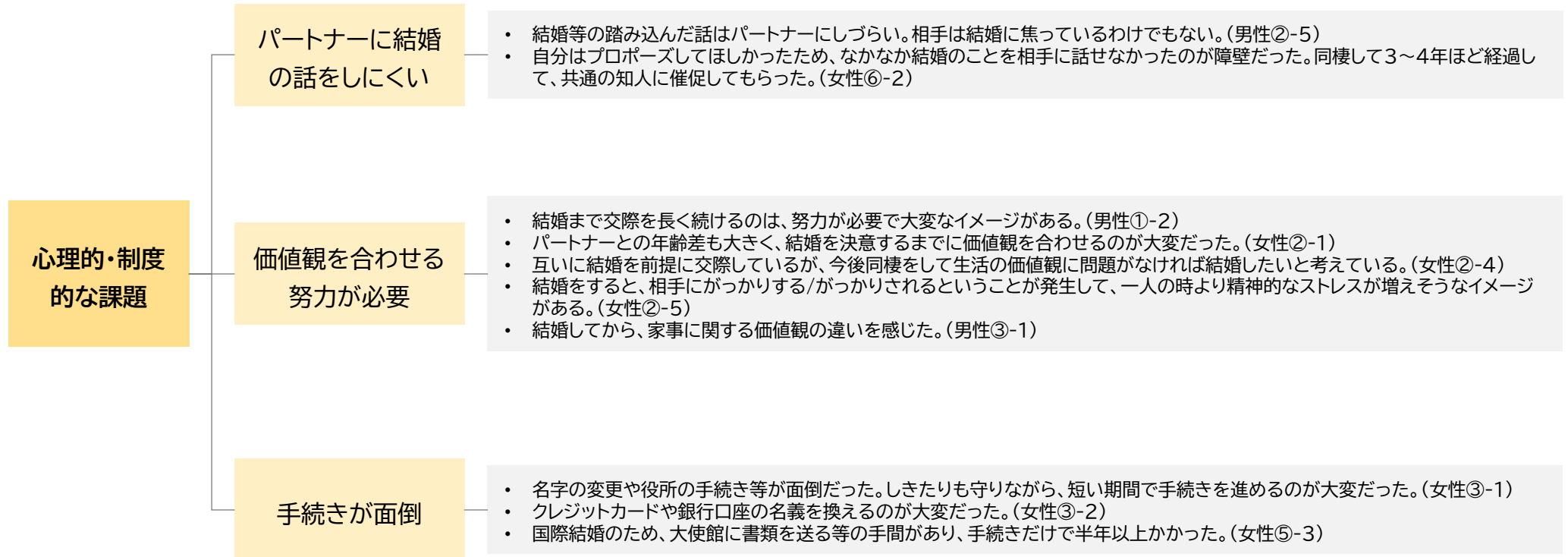
結婚にあたっての課題、障壁 ③家族間の人間関係の課題、④結婚後のライフスタイルに関する懸念

主な発言・意見



結婚にあたっての課題、障壁 ⑤心理的・制度的な課題

主な発言・意見



2.3.2. 出会い・結婚に係る環境・支援

出会い・結婚に係る環境・支援 インタビュー結果の整理・類型化

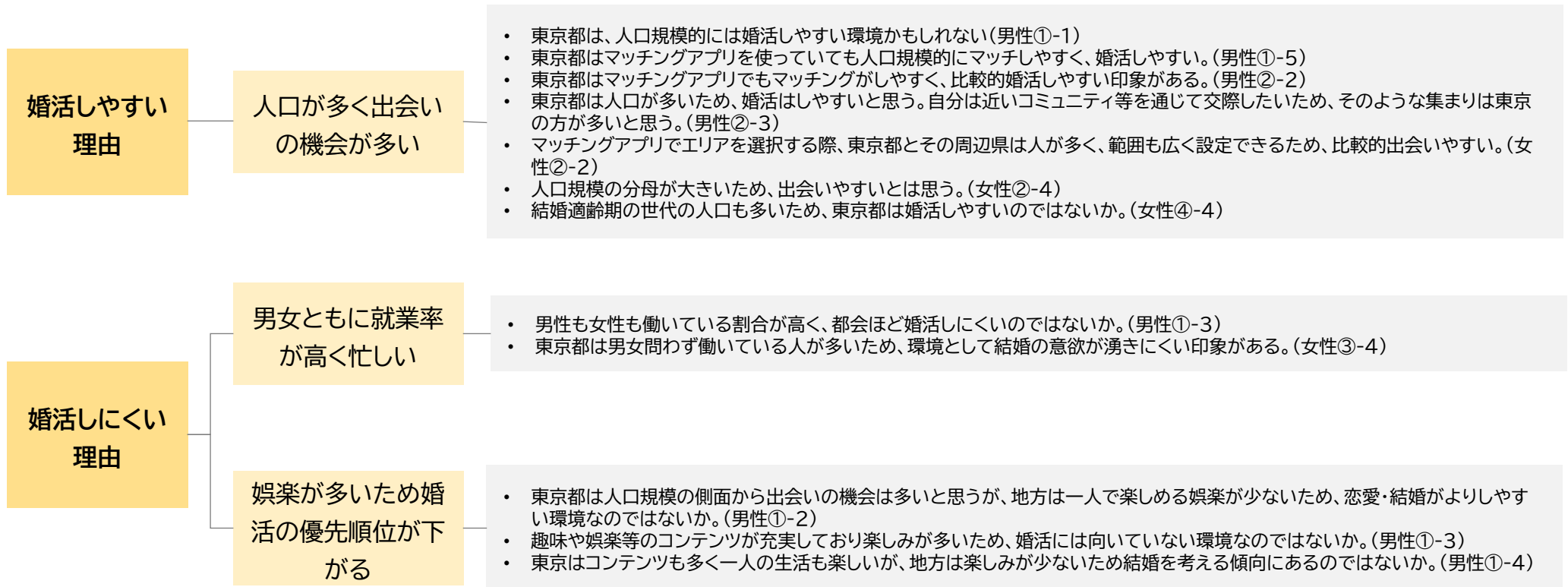
- 出会い・結婚に係る環境・支援についてのインタビュー結果は、「出会い・結婚に係る環境」「出会い・結婚について求められる支援」の2つの項目で整理し、各項目に関して得られた発言・意見の類型化を行った。

出会い・結婚に係る環境・支援 インタビュー結果の整理・類型化

整理項目	主な発言・意見の類型	該当ページ
出会い・結婚に係る環境	①婚活しやすい理由	p.37
	②婚活しにくい理由	p.37
出会い・結婚について 求められる支援	①出会いの場の提供	p.38
	②その他	p.38

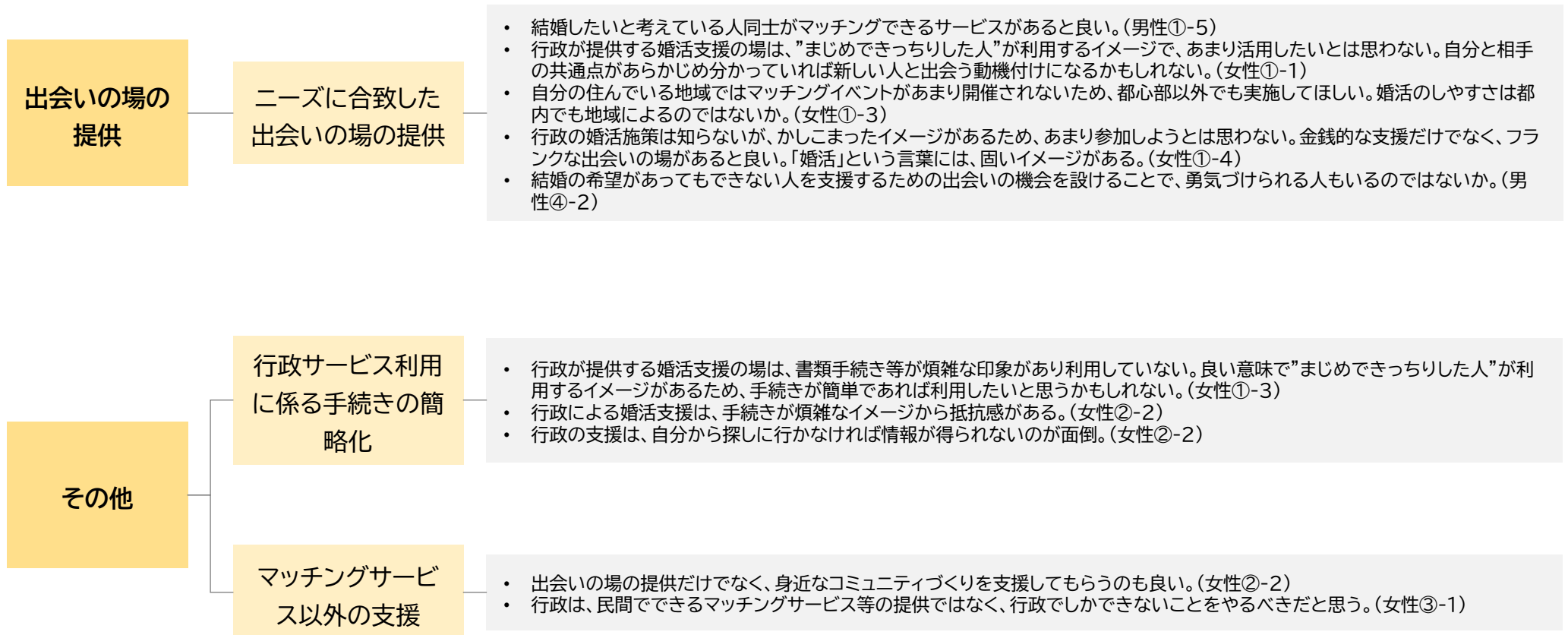
出会い・結婚に係る環境 ①婚活しやすい理由、②婚活しにくい理由

主な発言・意見



出会い・結婚について求められる支援 ①出会いの場の提供、②その他

主な発言・意見



2.3.3. 出産・子育て

出産・子育て インタビュー結果の整理・類型化

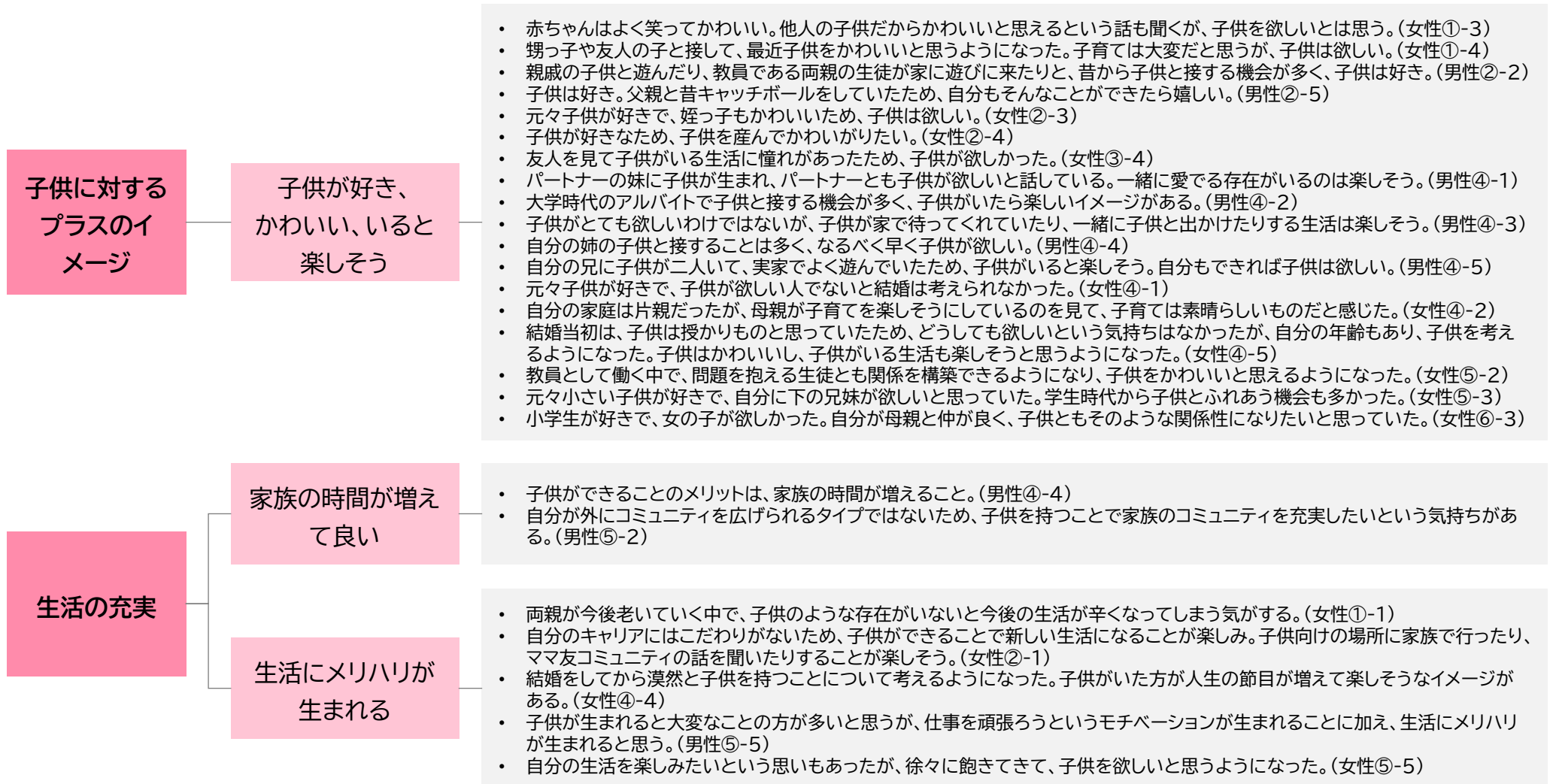
- 出産・子育てについてのインタビュー結果は、「子供を持った/持ちたい理由」「子供を持ちたくない/持たない理由」「理想より予定の子供の数が少ない理由」「子供を持つことへの課題、障壁」の4つの項目で整理し、各項目に関して得られた発言・意見の類型化を行った。

出会い・結婚 インタビュー結果の整理・類型化

整理項目	主な発言・意見の類型	該当ページ
子供を持った/持ちたい理由	①子供に対するプラスのイメージ	p.41
	②生活の充実	p.41
	③周囲の影響	p.42
	④特定の希望やこだわりに基づく理由	p.43
子供を持ちたくない/ 持たない理由	①経済的・時間的負担への懸念	p.44
	②身体的な問題	p.44
	③子育てへの懸念・責任感の問題	p.45
	④子供に対する個人の価値観	p.45
理想より予定の子供の数が 少ない理由	①経済的負担への懸念	p.46
	②育児負担への懸念	p.46
	③身体的な理由	p.47
子供を持つことへの課題、障壁	①経済的・時間的負担への懸念	p.48,49
	②身体的負担への懸念	p.50
	③パートナーとの関係性	p.50
	④周囲の支援環境の不足	p.50

子供を持った/持ちたい理由 ①子供に対するプラスのイメージ、②生活の充実

主な発言・意見



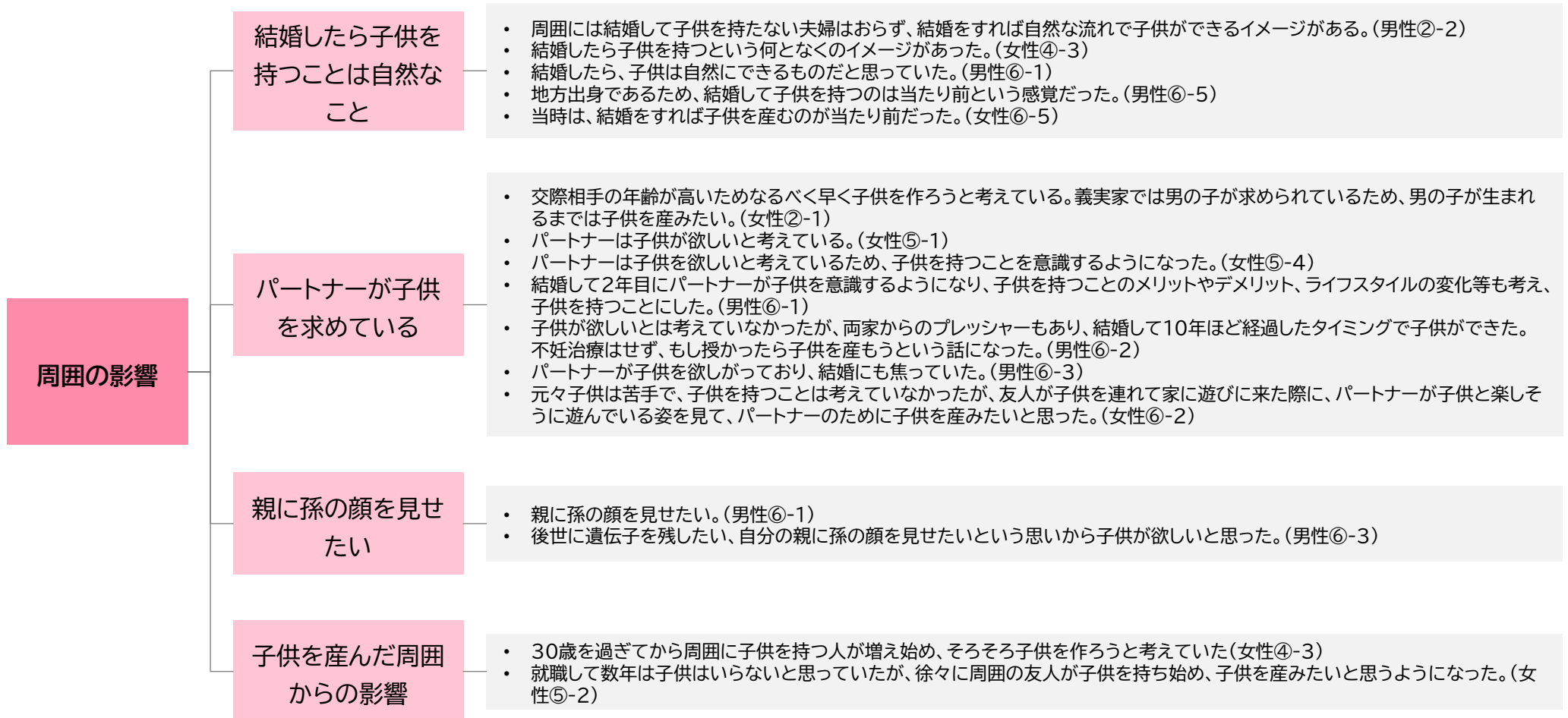
※1 アンケート調査では、子供を欲しい理由として、「子供がいると生活が楽しく心が豊かになるから」「子供が好きだから」と回答した割合が高かった。

「子供がいると生活が楽しく心が豊かになるから」と回答した割合は、女性や子育て世代(30~49歳)で高かった。

※2 アンケート調査では、子供とのふれあい経験が多い層で、希望の子供の数が「2人」「3人」と回答した割合が高く、「子供を欲しいとは思わない」と回答した割合が低かった。

子供を持った/持ちたい理由 ③周囲の影響

主な発言・意見



子供を持った/持ちたい理由 ④特定の希望やこだわりに基づく理由

主な発言・意見

特定の希望や こだわりに基づ く理由	兄妹がいた方が 良いため複数人 欲しい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分には今でも仲が良い兄妹がいるため、子供は二人欲しい。兄妹がいると、人生を通してそばにいる存在ができる。(女性①-1) ・ 理想は子供が二人欲しい。自分に兄妹がいて、一人っ子だと遊び相手もいないため、兄妹がいた方が良いと思う。(女性①-3) ・ 自分が三人兄妹であるため、子供は三人が理想。(男性②-1) ・ 自分にも兄妹があり、一人、二人は子供が欲しいと考えているが、三人以上はまだ想像できない部分がある。(男性②-2) ・ 自分は一人っ子だったが、幼少期に寂しかったため、子供は二人欲しい気持ちがある。大人になって身内が誰もいなくなってしまうのが怖いので、子供にも同じ思いをさせたくない。(男性②-4) ・ 夫婦ともに二人兄妹であるため、子供は二人欲しい。(男性④-2) ・ 夫婦ともに兄妹がいるため、子供は二人欲しい。(男性④-3) (女性④-1) ・ 子供は多ければ多い方が良い。自分もパートナーも兄妹がいるため、子供は複数人欲しい。(男性④-4) ・ 自分の母は、子供が支え合えるように三人産んだと言っていたので、自分も複数人産みたいと思っている。(女性④-2) ・ 自分は一人っ子で兄妹が欲しいと思ったことがあるため、子供は二人でも良いが、特別なこだわりはない。ただ、子供は複数人いた方が楽しく、兄妹がいると支え合える面があると思う。(女性④-4) ・ 自分も兄妹がいて、一人っ子より兄妹がいた方が互いに助け合えるし、家族も多い方がにぎやかになって楽しい。子供は三人産まないと人口は増えないため、理想は子供が三人欲しいが、現実的には二人だと思っている。(男性⑤-2) ・ 夫婦ともに兄妹がいるため理想の子供の人数は二人だが、経済面・精神面を考えると一人が限界と感じる。兄妹の関係性や、家にいるのが親だけではないという空気感が良い。(女性⑤-1) ・ 自分に兄妹がいるため、理想の子供の人数は二人。一人っ子よりは兄妹の関係性を子供に作ってほしいという思いがある。(女性⑤-3) ・ 自分に兄妹がいるため子供は二人をイメージしていた。(男性⑥-1) ・ 結婚するまでは、自分に兄妹がいることもあり、何となく子供は二人をイメージしていた(男性⑥-4) ・ 自分に兄妹がいるため、子供は二人をイメージしていた。一人っ子は自分の幼少期には少なかった。(女性⑥-2) ・ 元々の理想の子供の人数は二人。自分に兄妹がいるため、一人っ子は何となくかわいそうと思っていた。(女性⑥-3) ・ 自分は三人兄妹であるため、子供を複数人持ちたい思いはあった。(女性⑥-5)
	早く子供が欲しい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後1、2年以内、自分もパートナーも20代のうちに子供が欲しい。子供は二人欲しいと考えており、高齢出産は身体的な負担や子供の障害リスクも高くなるため、早く子供が欲しい。(男性④-1) ・ 若いうちに子供が欲しいと思っていた。自分が元気で間に子供と遊びたい。(男性④-2) ・ 遅すぎるタイミングにならないように、自分が35歳になるくらいまでには子供が持てると良い。(男性④-3) ・ 自分が4人兄妹の末っ子で、中高生時代に親の年齢が高いのが嫌だったため、自分は若いうちに子供が欲しい。(男性④-4) ・ パートナーの両親に不妊治療の経験があるため、自分は早いタイミングで子供を産みたいと考えている。(女性④-2) ・ 高齢出産になると、子供が成人した時の自分の年齢が高いのが嫌だという気持ちがある。子供が成人した後にパートナーとの余暇も欲しいと思っている。(男性⑤-4) ・ 子供が成人する頃も自分が働き続けていられるように、早めに子供を欲しいという焦りがあった。(男性⑥-3)
	子供を持つ タイミング	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだ結婚をしていないため深くは考えていないが、タイミングが来たら子供はできるのではないかと考えている。30代半ばには子供を二人産めると良いと何となく思っている。(女性①-1) ・ 35歳で結婚して、その後1-2年で子供ができれば良いと思っている。結婚して1-2年で一人目、その2年後くらいにもう一人、というイメージを持っている。(男性②-5) ・ 20代の頃には結婚と子供を持つことはイコールだったが、年齢を重ねるとその考えは薄れていった。自分のキャリアを優先せず20代から30代前半で結婚していたら、子供に対する考えも違っていただかもしれない。自分も兄妹がいたため、子供は二人くらいいても良かったかもしれない。(男性③-1) ・ 元々は20代に結婚して36歳までに子供を三人持ちたいと考えていた。(男性⑤-4)

子供を持ちたくない/持たない理由 ①経済的・時間的負担への懸念、②身体的な問題

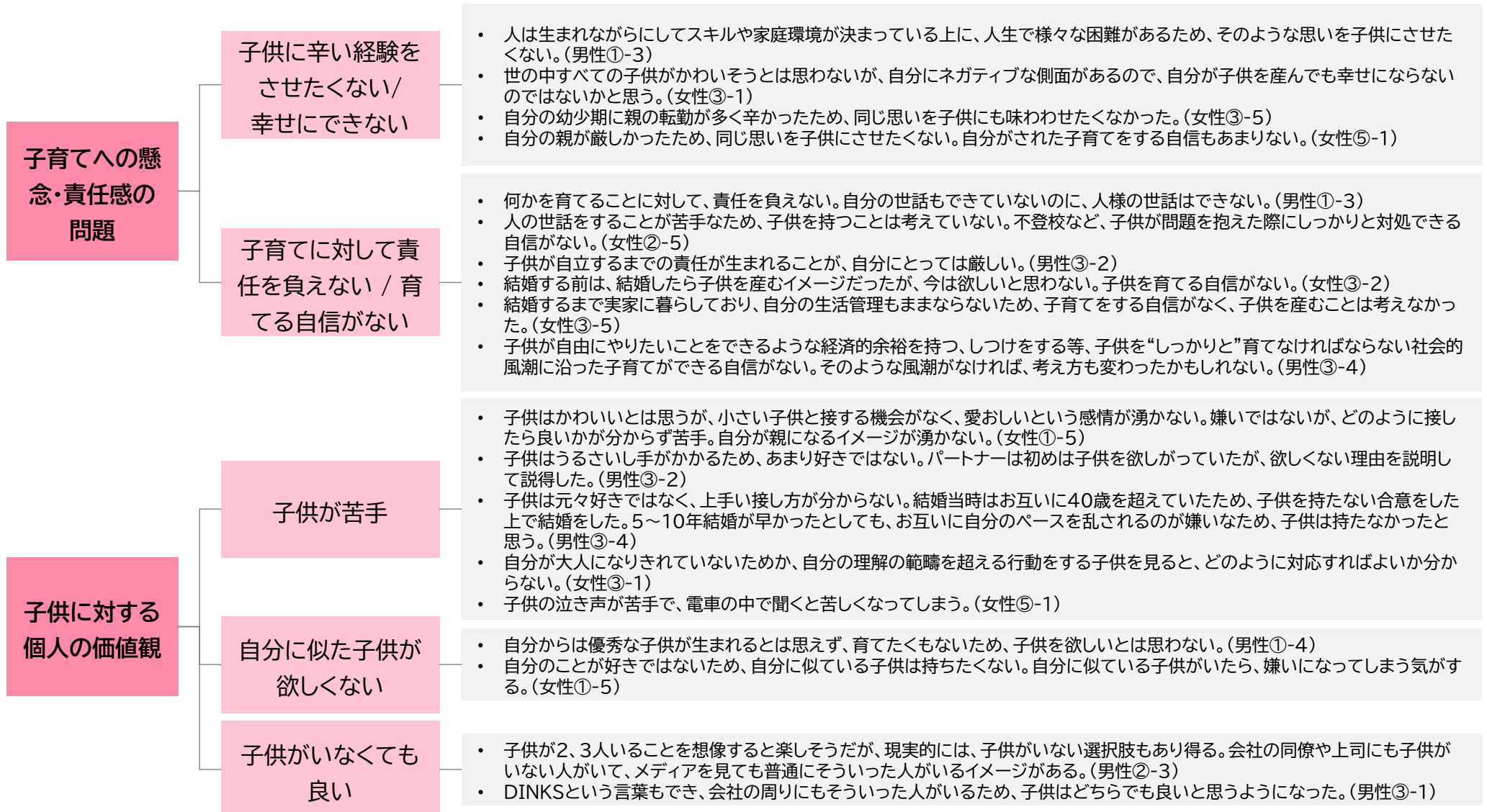
主な発言・意見

経済的・時間的負担への懸念	時間やお金の自由がなくなる	<ul style="list-style-type: none"> 子供を持つことは、結婚以上にお金と時間がかかるものであり、そのために自分を犠牲にしたいとは思わない。(男性①-1) 自分の時間が欲しいため、子供への時間を作りたくない。お金も自分に使いたいため、結婚にも消極的。お金が潤沢にあったとしても、自分で子育てをすることは考えられない。自分の自由にできないことでストレスが溜まってしまう。(女性①-5) 子供は手がかかるイメージがあり好きではなく、仕事の関係で一般人にインタビューを行った際も、子供を持つことは大変と話す人が大多数だった。趣味の山登りにも自由に時間を使える現状の生活に満足している。(男性③-2) 若い頃は自分の趣味に没頭していたため、人付き合いをあまりしていなかった。それがなければ、早めに結婚をして子供を持つという選択肢もあったかもしれない。(男性③-4) 自分のやりたいことが見つかってきて、それが崩れるのが嫌だった。パートナーは、子供がいたら子育てが大変で自分が壊れてしまったかもしれないと話している。(男性③-5)
	経済的な余裕がない	<ul style="list-style-type: none"> 結婚をして子供を持ったとしても、一人前に育てるためには、自分の給与では難しい。(男性①-3) 子供は好きだが、経済的な側面から、子供を持つことは難しいと思う。結婚したとしても、相手の収入に頼ることは抵抗がある。(女性①-2) 結婚前から、子供は産みたくないパートナーと話している。自分の家庭に経済的余裕がなかったこともあり、経済的な不自由がなくなる、あるいは出産時の身体的負担やキャリアへの影響がなくなれば、子供を持ちたいと思うかもしれない。(女性③-1)
	自分のキャリアを優先したい	<ul style="list-style-type: none"> 自分のキャリアを大事にたく、一度前職を辞めて大学院に通い再度就職をしたが、その時点での結婚との両立は難しかった。子供が欲しくないわけではないが、子供が欲しいから結婚を急ごうとはならなかった。(男性③-1) ハイキャリアを目指したため、子供を産むとキャリアが止まってしまうのが嫌。子供を産んでも他の人と全く出世の状況が変わらなければ、子供を産んでも良いと思うかもしれない。(女性③-1)
身体的な問題	出産の身体的負担を避けたい	<ul style="list-style-type: none"> 結婚したのが30代後半だったため、妊娠しにくい、出産も順調に行くか分からない、高齢出産はパートナーの体に負担が掛かるということを見ると、子供ができなかった時に辛くなるため、子供はどちらでも良いというスタンスを取っている。(男性③-1) 医学が発展して出産の負担がなくなれば、子供を産んでも良いと思うかもしれない。(女性③-1) 小さい子供はかわいいと思うが、出産は女性の方に身体的な負担が掛かり、子育てをする自信もないため、子供を持ちたいとは思わない。自分が出産をしなくても子供を持つことができれば、子供を持っても良いかもしれない。(女性③-2)
	体調面の不安	<ul style="list-style-type: none"> 元々子供に対する強い願望はなかったが、パートナーの体調が優れないことに加え、経済的にも余裕が少ないことから、子供を持つことは難しい。(男性③-3) 自分は持病を患っており、遺伝の懸念もあるため、子供にそのような負担をさせたくない。(女性③-1)
	身体的に子供を産むことができない	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身体的な特徴もあり、子供を産めない体であるため、子供を持つことは想像したことがない。(女性③-3) 元々子供は欲しかったが、病気が発覚し子供は諦めることとなった。子宮全摘をして子供はすっぱりあきらめた。(女性③-4)

※アンケート調査では、子供を欲しいと思わない理由として、「子供を育てる自信がないから」「育児にかかる費用が心配だから」と回答した割合が高かった。

子供を持ちたくない/持たない理由 ③子育てへの懸念・責任感の問題、④子供に対する個人の価値観

主な発言・意見



※アンケート調査では、子供を欲しいと思わない理由として、「子供を育てる自信がないから」「育児にかかる費用が心配だから」と回答した割合が高かった。

「子供を育てる自信がないから」と回答した割合は、女性や若年層で高く、男性で低かった。

理想より予定の子供の数が少ない理由 ①経済的負担への懸念、②育児負担への懸念

主な発言・意見

経済的負担への懸念

経済的な余裕がない

- ・ 東京は家の広さも限られるし、夫婦ともに地方出身で子育ての際に親の援助も受けられないため、三人以上は難しいと思う。(女性④-2)
- ・ 漠然と子供は二人持つイメージがあったが、経済面や生活・家事の負担も考えると、一人が限界だと感じる。(女性④-3)
- ・ 元々子供は二人欲しいと考えていたが、住宅コストを考えると一人が無難。一人目が生まれてから二人目は考えたい。(男性⑤-3)
- ・ 理想の子供の人数は二人だが、養育費、教育費を踏まえると一人が現実的。(男性⑤-5)
- ・ お金が潤沢にあれば気持ちに余裕も生まれ、子育てサービスも活用できるため、二人目を考えても良いかもしれない。(女性⑤-1)
- ・ パートナーは特に子供に良い教育を与えたい気持ちが強く、教育費等の経済面を考慮しても、一人が限界と感じる。経済面の懸念がなければ、子供を複数人持ちたいと思うかもしれない。(女性⑤-3)
- ・ 本当は子供が二人欲しいが、経済面と体力面を踏まえると、一人が限界かと思っている。経済面の懸念の方が大きく、お金が潤沢にあれば、二人目を考えると思う。現実には、老後の資金や日々の生活コストを考えると、二人目は厳しい。(女性⑤-5)
- ・ 自分の年齢や経済面を考慮すると、子供の数は一人が限界と感じる。経済面の懸念がなければ、二人目を考えるかもしれない。(男性⑥-4)
- ・ 元々理想の子供の人数は二人だったが、東京都での子育てではお金がかかることに加え、自分も正社員として働きながら育てる気はなかった。今の子供を一人前にすることを優先しようと思った。(女性⑥-5)

育児負担への懸念

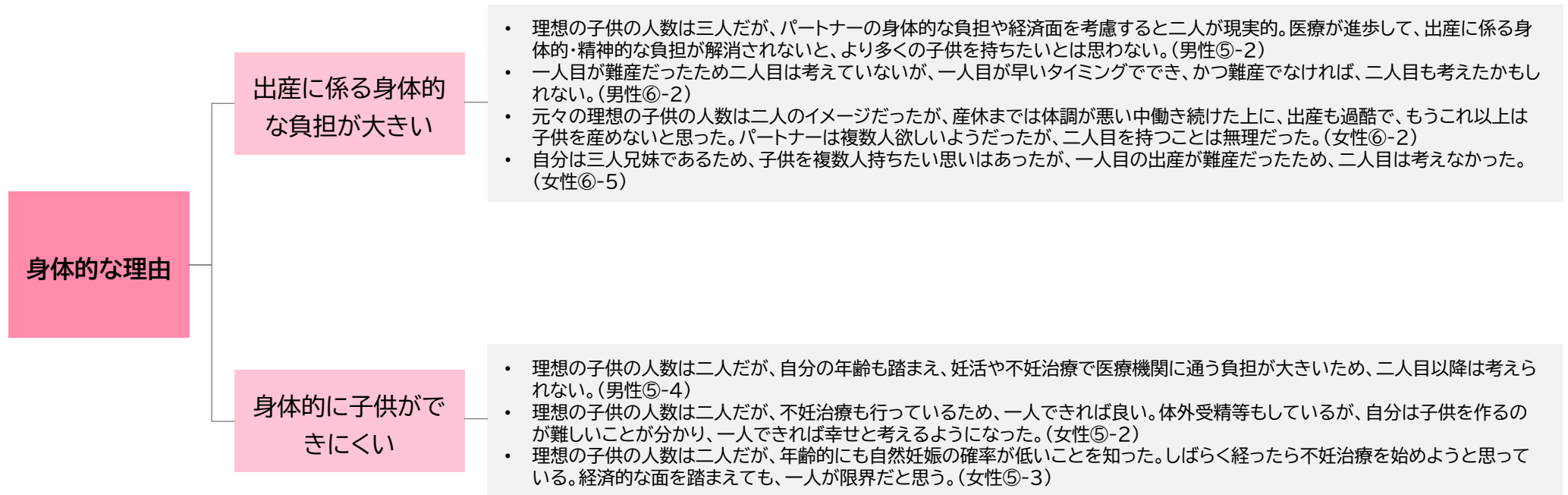
子供の面倒を見切れない

- ・ パートナーと二人の生活・家事だけでも大変なのに、子供が一人増えても頑張れるかが不安。(女性④-3)
- ・ 理想の子供の人数は二人だが、パートナーの子育てに対する自信・不安や、経済面を考慮すると一人が現実的。経済面での余裕があったとしても、子育て負担を考えると二人が限界だと感じる。(男性⑤-1)
- ・ 金銭面の不安がなくても、子育てが大変なため、最大でも二人を考えている。(男性⑤-5)
- ・ 経済的な余裕があれば二人目を考えるかもしれないが、仕事で時間の余裕がない場合は、二人目は難しい。(女性⑤-1)
- ・ 子供の夜泣きや外出中の癪癪等、子育ての負担から一人が限界と感じる。時間と経済面での余裕があればもう一人持つことは考えるかもしれない。一人目の子育てが大変なままでは、二人目は考えられない。(男性⑥-1)
- ・ 保育園が自宅から遠く、夜遅くまで預かってもらえないため、夫婦ともにフルタイムで働きながら子供を育てるのは一人が限界と感じた。(男性⑥-2)
- ・ パートナーは二人目が欲しいと考えていたようだが、育児をする中で体力的な限界を感じた。5年早く一人目の子供を産んでいれば、二人目は考えていたと思う。結婚して子供を持ってから、収入や体力面の限界、子育ての大変さを知った。(男性⑥-3)
- ・ 自分が母親と仲が良かったため、女の子が欲しいと考えており、一人目が女の子だったため満足している。一人目が男の子だった場合は二人目も考えたかもしれないが、育児ノイローゼになった経験もあり、子育ての苦労を考えるともう一人産みたいとは思わない。(女性⑥-3)

※アンケート調査では、予定の子供の数が理想より少ない理由として、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した割合が最も高かった。

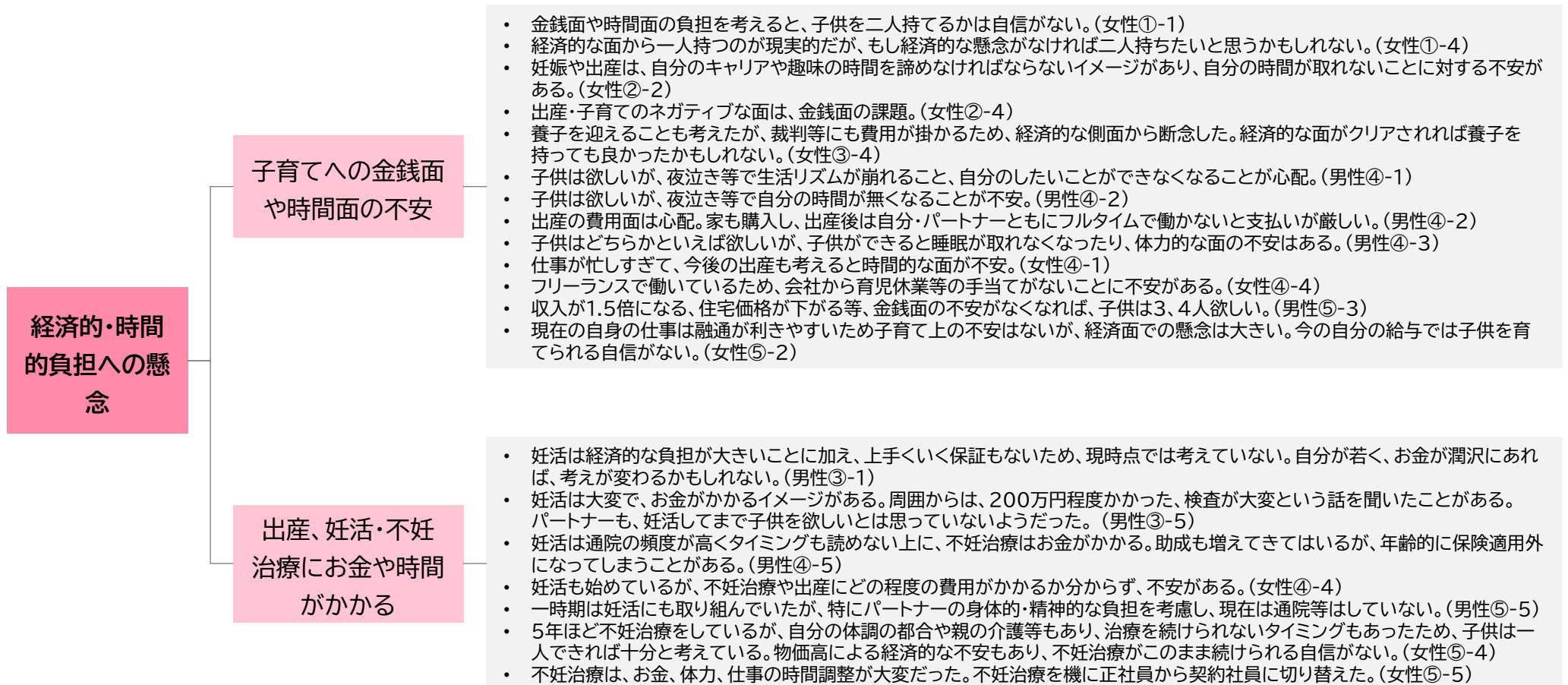
理想より予定の子供の数が少ない理由 ③身体的な理由

主な発言・意見



子供を持つことへの課題、障壁 ①経済的・時間的負担への懸念

主な発言・意見

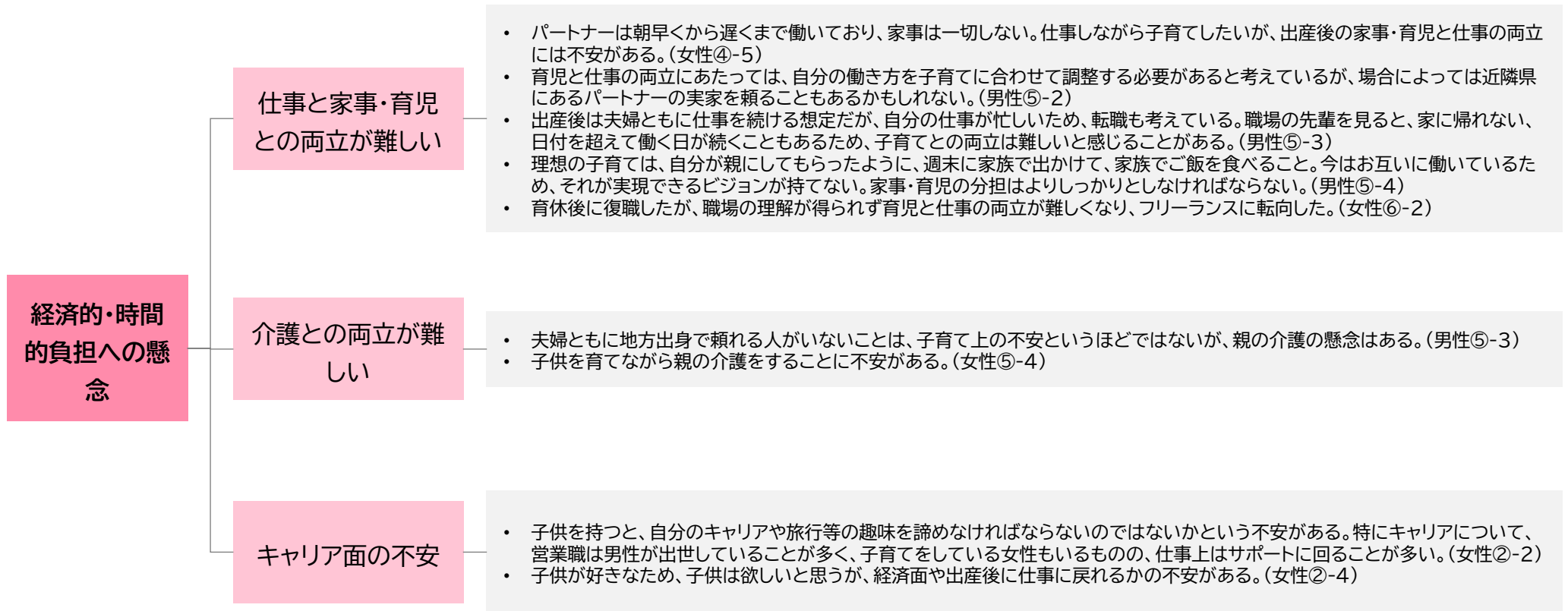


※1 アンケート調査では、子供を持つことに対する考え方として、「いずれ子供が欲しいと考えていて、タイミングや条件が整えば子供を持てだろう」と回答した割合は、低所得層(年収0～300万円未満)で低く、高所得層(年収600万円以上)で高かった。

※2 アンケート調査では、安心して出産ができる環境が整っていないと感じる理由として、「出産にかかる費用が高い」「出産と仕事の両立が難しい(自身)」と回答した割合が高かった。

子供を持つことへの課題、障壁 ①経済的・時間的負担への懸念

主な発言・意見



※1 アンケート調査では、子供を持つことに対する考え方として、「いずれ子供が欲しいと考えていて、タイミングや条件が整えば子供を持てだろう」と回答した割合は、低所得層(年収0～300万円未満)で低く、高所得層(年収600万円以上)で高かった。

※2 アンケート調査では、安心して出産ができる環境が整っていないと感じる理由として、「出産にかかる費用が高い」「出産と仕事の両立が難しい(自身)」と回答した割合が高かった。

2.3.3. 出産・子育て

子供を持つことへの課題、障壁 ②身体的負担への懸念、③パートナーとの関係性、④周囲の支援環境の不足

主な発言・意見

身体的負担への懸念	つわりや出産が辛い・怖い	<ul style="list-style-type: none">自身の職場は産前産後休業・育児休業が取りやすいため、復職等に不安はあまりないが、つわりや出産は怖い。妊娠生活、出産が大変だった人のエピソードを聞くこともあり不安は大きい、それよりも子供が欲しい気持ちの方が大きい。(女性②-3)つわりがひどかったこともあり、子供を複数人持つ気持ちはなくなった。(女性⑥-4)
	年齢面の不安	<ul style="list-style-type: none">自分の年齢を考えても、早く結婚をしないと子供が産めないのではないかと不安がある。40代の友人に、30代前半で頑張らないと厳しいと言われた。(女性②-3)パートナーとともに東京に戻ってきたタイミングでは、既に子供を産める年齢ではなくなっていた。(女性③-5)自分もパートナーも高齢であるため、1日でも早く子供が欲しい。顕微授精で受精もしたが、1年前に流産してしまった。一人でも授かれば嬉しい。(男性④-5)
	体調面の不安	<ul style="list-style-type: none">1年ほど子供ができなかった場合は通院も検討しているが、パートナーの体力の心配もあり、無理に治療をすることは避けたい。(男性④-1)病気が発覚し、その症状が落ち着かない限りは子供を産むことは難しい。(女性④-3)25歳の頃に卵巣嚢腫、卵巣がんの疑いがあり、子宮摘出の危険性があった。(女性⑥-3)
パートナーとの関係性	パートナーの協力を得られない	<ul style="list-style-type: none">将来結婚する相手が子育てを手伝ってくれるかが不安。転勤が多い人は望ましくない。(女性②-4)里帰り出産をして、パートナーも毎週東京から来てくれたが、子育てに全く関与しない姿を見て二人目を持つことは考えなくなった。(女性⑥-1)
周囲の支援環境の不足	実家の支援を受けられない不安	<ul style="list-style-type: none">地方出身のため、親族から子育ての支援が受けられないことへの不安がある。(女性②-3)今は実家が遠いが、近くに実家があると子育ての援助をしてもらえるのという気持ちがある。実家以外にもサポートしてくれる人がいれば、より子供を欲しいと思うかもしれない。(女性⑤-2)

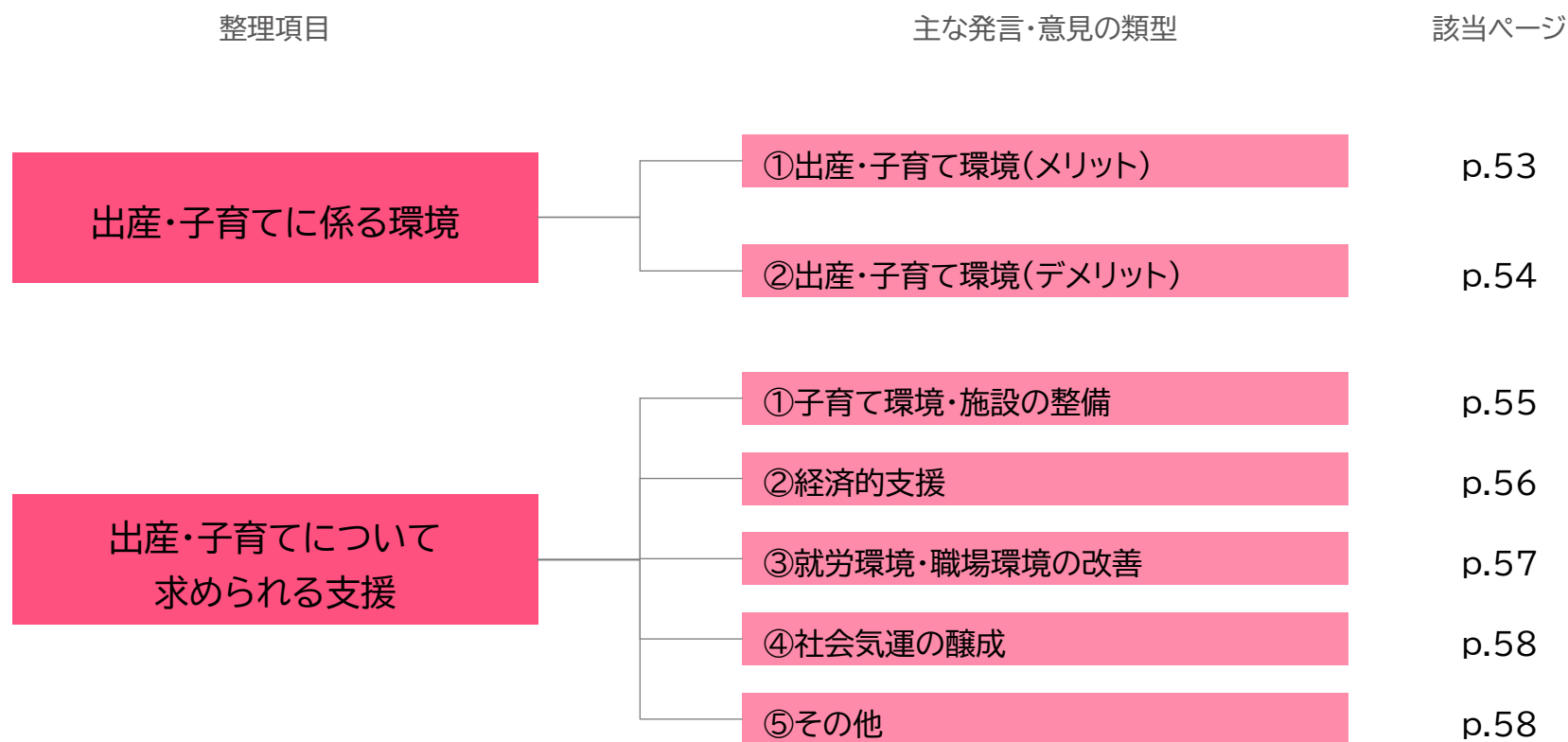
※アンケート調査では、子供を持つことに対する考え方として、子育て世代で「いずれ子供が欲しいと考えていて、タイミングや条件が整えば子供を持てるだろう」と回答した割合が低く、「子供が欲しいとは思っていないし、仮に子供が欲しくなっても難しいだろう」と回答した割合が高かった。

2.3.4. 出産・子育てに係る環境・支援

出産・子育てに係る環境・支援 インタビュー結果の整理・類型化

- 出産・子育てに係る環境・支援についてのインタビュー結果は、「出産・子育てに係る環境」「出産・子育てについて求められる支援」の2つの項目で整理し、各項目に関して得られた発言・意見の類型化を行った。

出産・子育てに係る環境・支援 インタビュー結果の整理・類型化



出産・子育てに係る環境 ①出産・子育て環境(メリット)

主な発言・意見

出産・子育て 環境 (メリット)	子育て支援等が 手厚い	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の子育て支援は充実している。保育料への支援も手厚い。(女性①-3) 東京都は子育てしやすいイメージがある。緑は少ないかもしれないが、支援は手厚い印象。(男性②-5) 高校の教育費無償化、保育料免除等、支援が充実してきている。(女性②-2) 東京都は補助金が多い。自分の妹は他県に住んでいるが、補助金が充実していないという話を聞く。(男性③-2) 東京都は子育てに関する補助金は充実しているイメージがある。(男性③-3) 東京都は教育費無償化等の支援が充実しているため、自宅購入時も周辺県ではなく東京都を選んだ。(男性④-2) 無痛分娩費用や不妊治療費の助成等、東京都は支援策が充実していることに加え、病院等のインフラも整っているため、子育てしやすい環境だと感じる。(男性④-3) 一時的に近隣県に住んでいたが、医療費の補助がなく驚いた。妊活も、東京都は他県に比べて補助が手厚い。(男性④-5) 東京都は、妊婦に対する手当や子供の医療費に対する補助が多いイメージがある。(女性④-2) 東京都は補助金が充実していて、子育てしやすいと思う(男性⑤-2) 東京都は補助金が充実していて、子育てしやすい。それも考えて東京に家を買った。(男性⑤-3) 東京都は018サポートや不妊治療費助成等の支援が手厚い。(女性⑤-5) 他の県に比べて補助が手厚く、子供の医療費が無料なのは助かる。(男性⑥-1) 18歳まで医療費無料、給食費無料、児童手当が出るのは良い。東京都の子育て支援は、他の自治体に比べて手厚いイメージがある。(男性⑥-3) 子供の医療費や教育費の補助は非常に助かる。(男性⑥-5) 保育料や給食、高校授業料の無償化はありがたいと感じる。(女性⑥-4)
	保育施設が 整っている	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童も解消に向けて頑張っているイメージがある。(男性④-5) 保育園は増えているように感じる。子育て環境も良くなってきているのではないかと。(男性⑥-2)
	教育環境が 整っている	<ul style="list-style-type: none"> 東京都は教育環境や習い事も充実しているので、子育てしやすい環境だと思う。(男性③-2) 東京都は、中高生にとっては人との出会いも多く、教育面でも良いと思う。(男性④-1) 東京都は教育の質も高く、競争力が高い環境で育った方が子供のためにもなる。子供のやりたいことを実現できるのが東京だと思う。(男性⑤-3) 東京都は学校も多く、田舎より優れているのではないかと。教育費については、大学進学も考えると、地方から東京に子供を住まわせるのにもお金がかかる。(男性⑤-5)
	公園や道路等の インフラが整備 されている	<ul style="list-style-type: none"> 東京都は公園や道が整備されている。(男性①-3) どちらかと言えば、東京都は子育てしやすいイメージがある。子供が遊べる公園があったり、図書館でも子供を預かってくれたりするサービスがある。(男性②-2) 東京都は公園が多い。(男性⑤-5) 東京都は、児童館や公園が整備されている。(女性⑤-5)
	教育費の負担が 小さい	<ul style="list-style-type: none"> 東京都は高校まで所得制限なしで授業料を無償化している。(男性①-3) 東京都は子育てしやすい環境だと思う。高校まで授業料が無償化されていると聞いた。(男性①-5) 高校授業料の無償化も含めて、他の県より東京都は住みやすいのではないかと。(男性④-5) 東京都は高校授業料を無償化しているため、支援は手厚いと思う(女性④-5)

出産・子育てに係る環境 ①出産・子育て環境(デメリット)

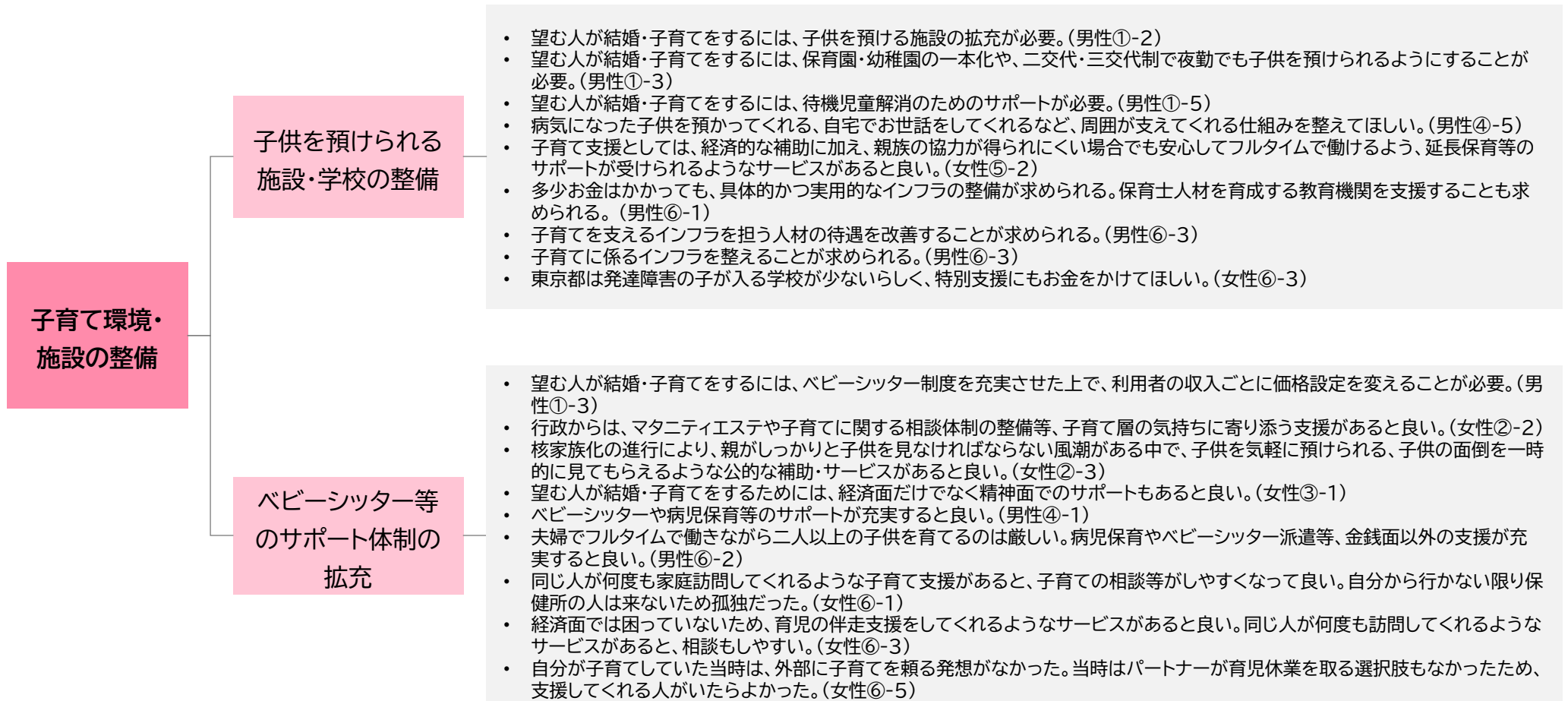
主な発言・意見

出産・子育て 環境 (デメリット)	子供を預けにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の空きがなかなか見つからないため、東京都は子育てしにくいのではないかと。(男性③-5) ・ 周囲の友人で、保育園が職場と家の間にあり、通勤中に途中下車する必要があると聞いた。東京都は通勤電車等の混雑も多く、自宅に近い保育園に入れなかった場合に、子供を連れながらの通勤は難しい。(女性⑤-3) ・ 今住んでいる地域は待機児童0だが、駅から遠い場所に保育園があるため、アクセスは悪い。(女性⑤-4) ・ 子供を預かってくれるインフラが欲しい。現状預かってくれるサービスは、時間が短くコストも高い。子供を預けられて時間の余裕が生まれれば、子供を複数人持つことも考えたかもしれない。(男性⑥-1) ・ 東京都は、子供を預けられる環境が不足している。(男性⑥-5)
	周囲のサポートが 得られにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲に親族が住んでいない場合、東京都は周囲のサポートを受けづらく、子育てしにくいイメージがある。(男性③-5) ・ 東京都は、プライバシーへの意識が高く、隣に誰が住んでいるかもわからないため、それが子育てのしにくさにつながっているのではないかと。(女性③-4) ・ 東京都は、特に地方出身者が子育てのサポートを得られにくい環境だと感じる。(男性④-1) ・ 地方出身者は実家からのサポートを受けづらいため、東京都は子育てしづらい環境にあると感じる。(男性⑤-1)
	広い空間、遊び場、 自然が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育ては、東京都より地方の方がやりやすいのではないかと。手つかずの自然がある方が良いイメージがある。(男性①-2) ・ 広い公園等、のんびりとした空間が少ないというのはデメリットである。(女性②-1) ・ 東京都は保育園、幼稚園の敷地が狭く、小学校も少なくなってきたと聞き、不便も多いのではないかと。(女性②-4) ・ 昔はもう少しのびのびと子供が遊んでいたのではないかと。今は安心して子供が過ごせる環境がない。(女性③-5) ・ 東京都は車を持つことも難しく、ショッピングセンター等で子供が遊ぶことも難しいため、子育てには不便な印象がある。(女性④-1) ・ 家が狭い、騒音を出すと隣に迷惑がかかる、広い遊び場がないなど、生活の上では不便な面がある。(女性⑤-5) ・ 道路が狭い、公園のベンチを大人が使っている、児童館も混んでいるなど、子供が遊べる環境が改善されると良い。(男性⑥-2)
	日々の生活コスト が大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の生活コストが高く、そういった日常生活に対する支援は手薄いのではないかと。(女性②-2) ・ 東京都は住宅価格や学費が高く、平均的な収入では子供を持つことは難しい。(男性③-1) ・ 018サポート、高校授業料無償化等、東京都は子育て支援が充実していると思うが、住宅コストが高いため、共働きをしないと子育ては難しいイメージがある。(男性③-4) ・ 子育て補助が多い反面、住宅価格が高すぎる上、家族用の住まいも少ないのではないかと。(男性⑤-2) ・ 住宅価格が高くなっている中で、金銭面では子供を育てにくい環境になっているかもしれない。(男性⑥-2) ・ 今の物価高で子育ては大変だと思う。(男性⑥-5)
	教育費が高い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校・中学校受験が当たり前になっており、私立は学費も高く、東京都で子供を持つのは難しいと思う。(男性③-1) ・ 子育ての支援制度は整っていると思うが、競争社会の側面が強く、教育費がかかる等、子供を育てにくい環境なのではないかと。(女性③-1) ・ 子供の医療費や教育費の補助は非常に助かるが、学習塾等の学校外教育費も考慮すると負担は大きい。(男性⑥-5) ・ 学費や生活費は地方に住んでいた方が安いと、それも含めると東京都に住んでいてお得とはあまり思わない。(女性⑥-2) ・ 私立学校の教育費や、塾の費用も含めるとお金が全く足りない。特に大学受験は非常にお金がかかる。生活コストも高いため、火の車。(女性⑥-5)

※アンケート調査では、望む人が子育てをする上での住環境・教育の課題として、「住宅に係る家賃や購入費が高い」「塾や予備校に費用がかかる」と回答した割合が高かった。

出産・子育てについて求められる支援 ①子育て環境・施設の整備

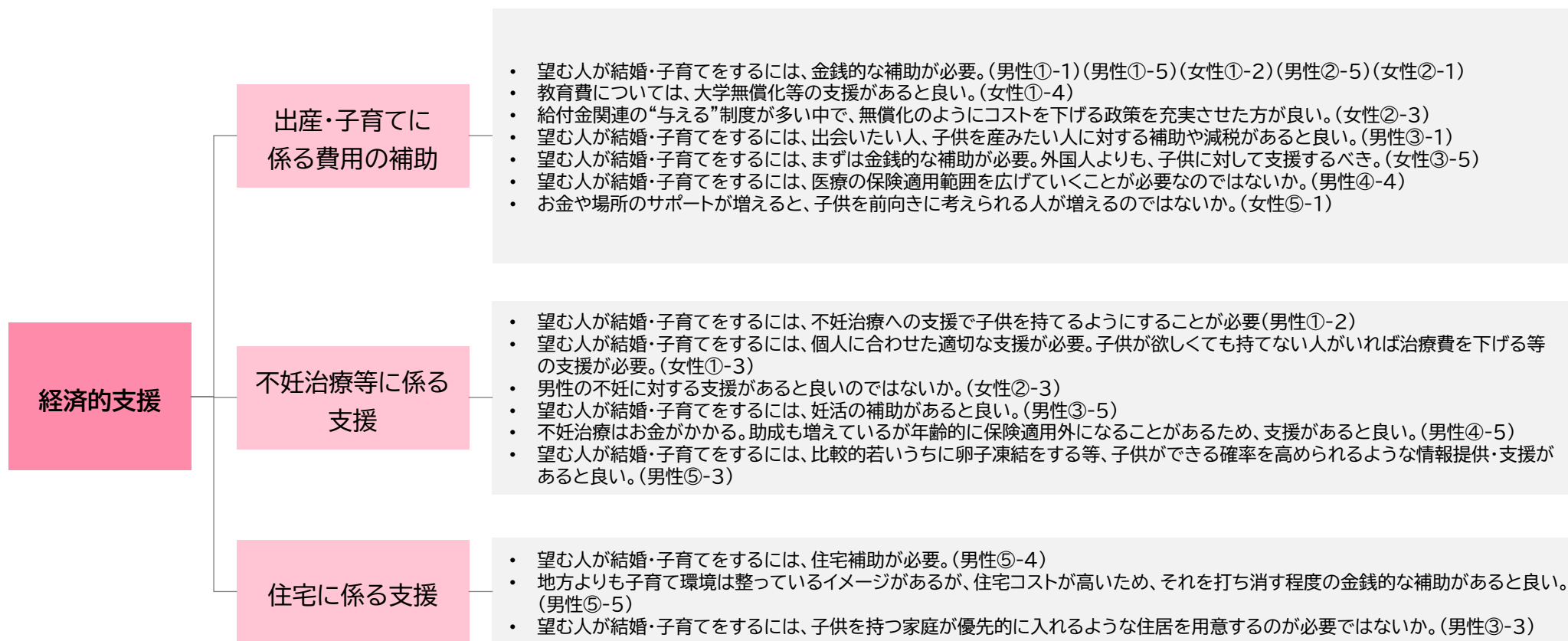
主な発言・意見



※アンケート調査では、東京都の子供・子育て支援の施策として充実を期待するものとして、「ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービス」「子育て家庭を地域で支える仕組みとサービスの充実」と回答した割合が高かった。

出産・子育てについて求められる支援 ②経済的支援

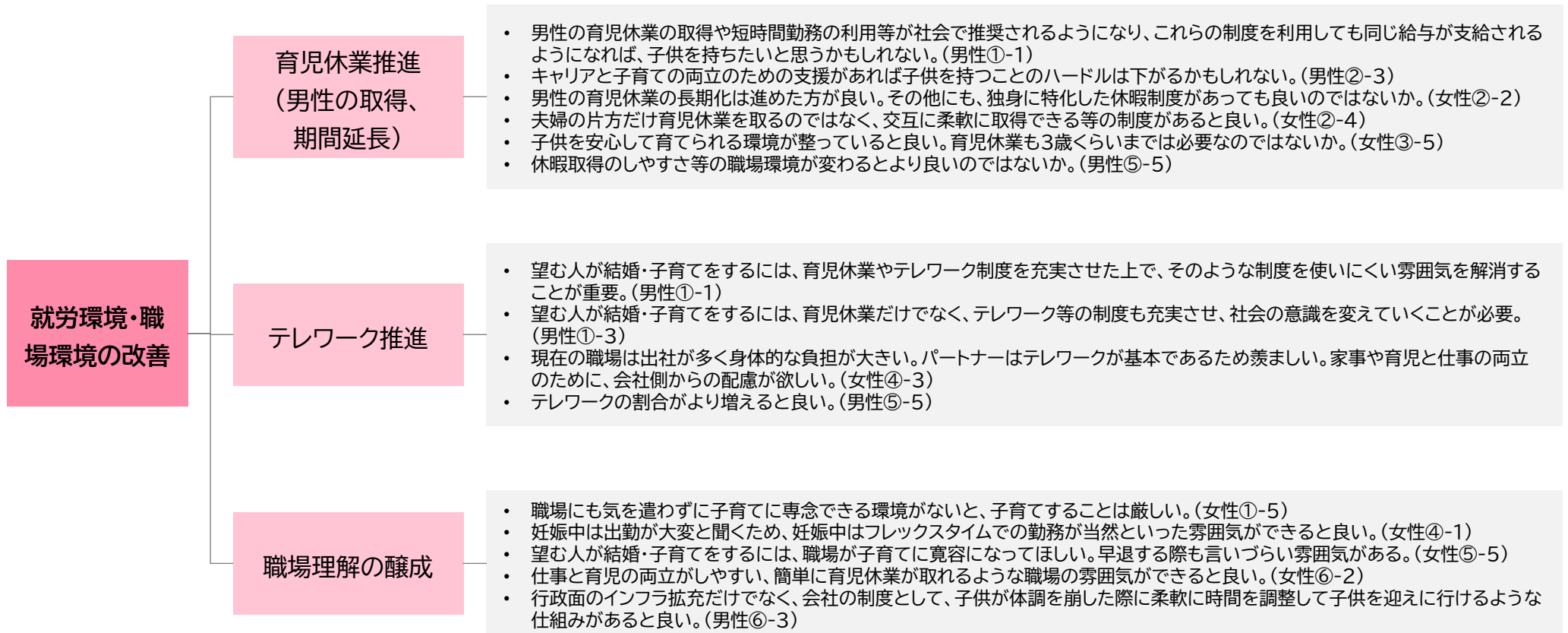
主な発言・意見



※アンケート調査では、少子化対策として有効な取組として、「賃上げや正社員への転換支援など、安定した収入の実現」「金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充」と回答した割合が高かった。

出産・子育てについて求められる支援 ③就労環境・職場環境の改善

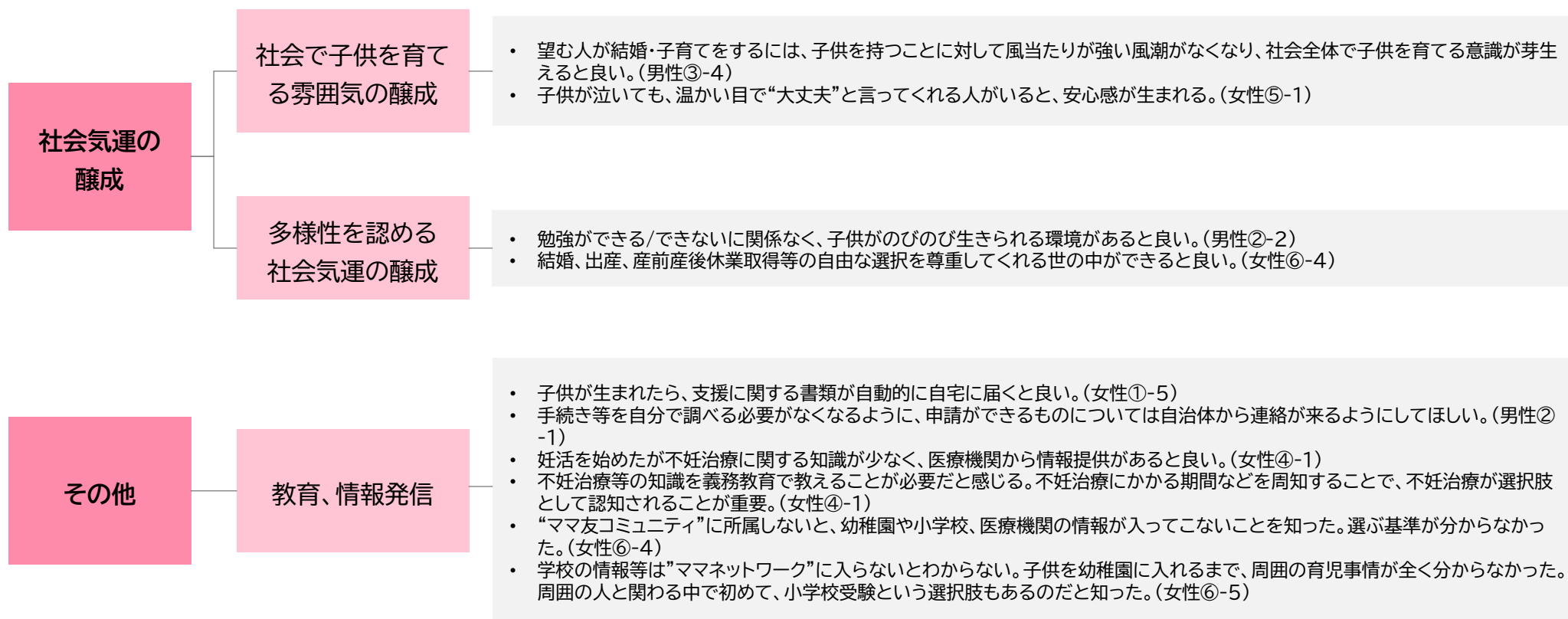
主な発言・意見



※アンケート調査では、望む人が子育てする上での仕事・働き方の課題として、「子供にかかわる突発的な事情での休暇が取りにくい」「時間にとらわれない働き方が難しい」と回答した割合が高かった。「子供にかかわる突発的な事情での休暇が取りにくい」と回答した割合は、女性で高く、男性で低かった。

出産・子育てについて求められる支援 ④社会気運の醸成、⑤その他

主な発言・意見



※アンケート調査では、子供・子育てにやさしい社会をつくる上で有効だと思う取組として、「子供・子育てに関する社会の理解促進」「男性の家事・育児参加の促進」と回答した割合が高かった。

2.3.5. 東京都に住むこと

東京都に住むこと インタビュー結果の整理・類型化

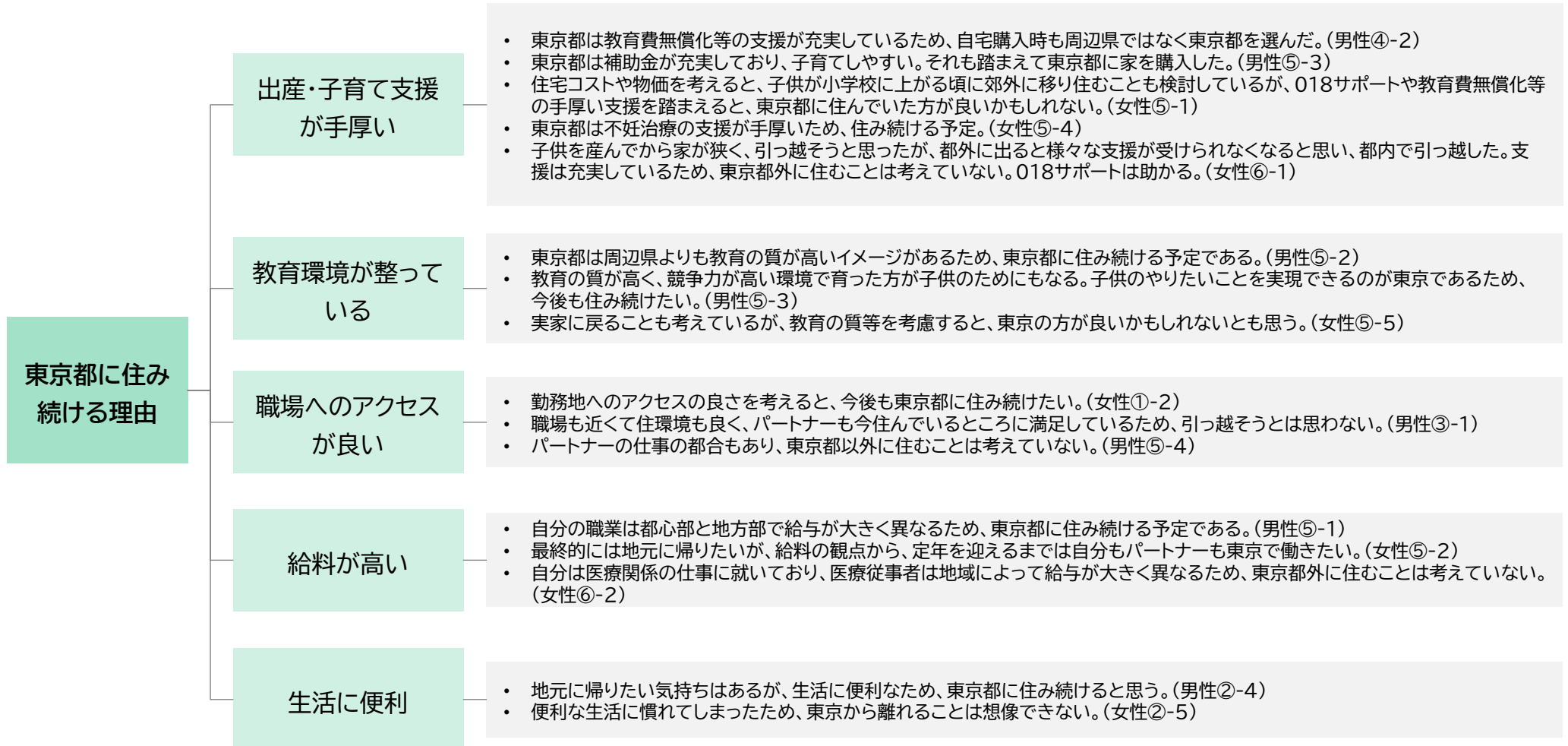
- 東京都に住むことについてのインタビュー結果は、「東京都に住民続ける理由」「東京都から移住する理由」の2つの項目で整理し、各項目に関して得られた発言・意見の類型化を行った。

東京都に住むこと インタビュー結果の整理・類型化

整理項目	主な発言・意見の類型	該当ページ
東京都に住民続ける理由	出産・子育て支援が手厚い	p.61
	教育環境が整っている	p.61
	職場へのアクセスが良い	p.61
	給料が高い	p.61
	生活に便利	p.61
東京都から移住する理由	東京都の子育て/生活環境	p.62
	パートナーが転勤する可能性	p.62

東京都に住み続ける理由

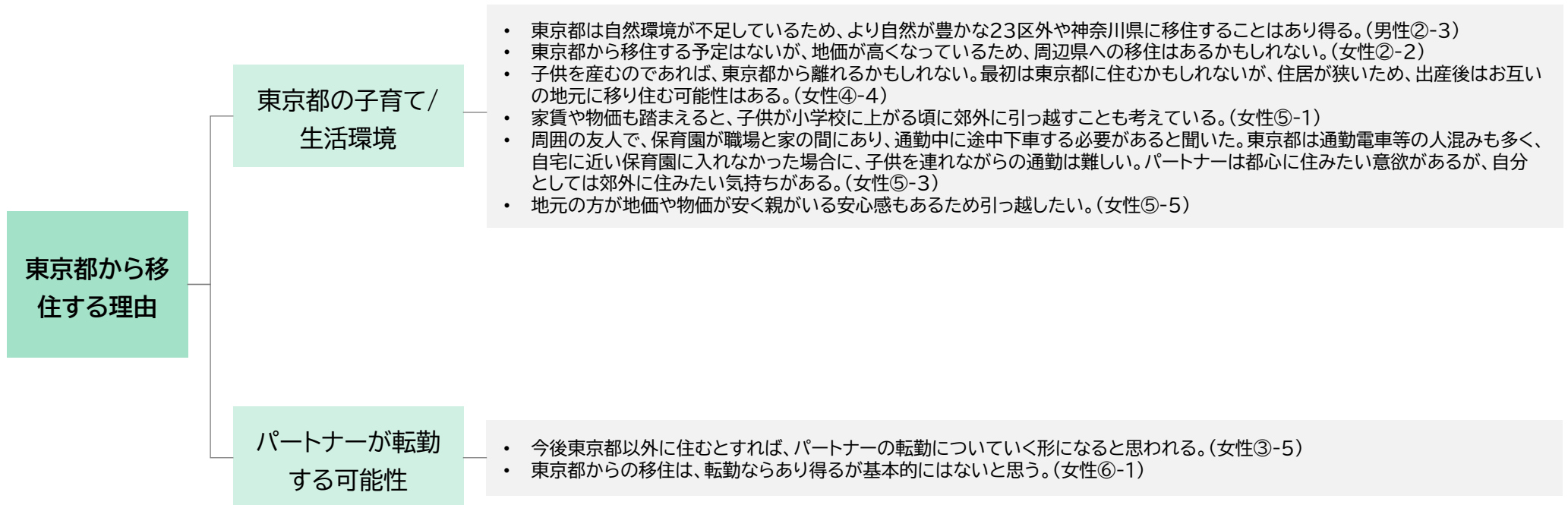
主な発言・意見



※アンケート調査では、現在住んでいる地域に住み続けたい理由として、「通勤・通学に便利なところだから」「買物など日常の生活環境が整っているから」と回答した割合が高かった。

東京都から移住する理由

主な発言・意見



※アンケート調査では、現在住んでいる地域から転居したい理由として、「家賃など住居費が高いから」と回答した割合が最も高かった。

